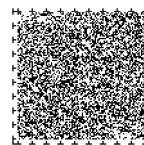


二 調査結果の分析

第3章 さまざまな人権問題について



Ⅲ さまざまな人権問題についておたずねします

問17 女性の人権に関することがらで、特に問題であると思うものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。(複数回答)

表17 女性の人権に関し、特に問題と思うもの

		合計	(職場における賃金・昇進待遇)	(妊娠・出産を理由とした嫌がらせ)	(職場や学校等における性的嫌がらせ)	男女の役割分担意識	(DV) やストーカー行為、性暴力	女性の社会進出を支援する制度が未整備なこと	女性を商品化するような性的情報等が多いこと	その他	特に問題と思うことはない	女性の人権問題について知らない	無回答
		上段: 回答者数(人) 下段: 割合 (%)											
全体		1,573 100.0	678 43.1	679 43.2	527 33.5	462 29.4	632 40.2	396 25.2	250 15.9	27 1.7	78 5.0	78 5.0	43 2.7
性別	女性	890 100.0	393 44.2	391 43.9	248 27.9	286 32.1	373 41.9	248 27.9	151 17.0	11 1.2	40 4.5	35 3.9	25 2.8
	男性	662 100.0	277 41.8	279 42.1	274 41.4	170 25.7	251 37.9	147 22.2	96 14.5	16 2.4	37 5.6	43 6.5	14 2.1
	その他	3 100.0	3 100.0	2 66.7	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18~29歳	128 100.0	54 42.2	78 60.9	54 42.2	41 32.0	46 35.9	36 28.1	9 7.0	2 1.6	3 2.3	3 2.3	0 0.0
	30~44歳	333 100.0	139 41.7	179 53.8	122 36.6	92 27.6	147 44.1	90 27.0	43 12.9	8 2.4	16 4.8	5 1.5	1 0.3
	45~64歳	606 100.0	267 44.1	270 44.6	222 36.6	188 31.0	270 44.6	140 23.1	106 17.5	10 1.7	25 4.1	19 3.1	17 2.8
	65歳以上	485 100.0	213 43.9	146 30.1	126 26.0	137 28.2	160 33.0	129 26.6	88 18.1	7 1.4	33 6.8	49 10.1	20 4.1

女性の人権に関することがらで、特に問題であると思うものとして、割合が最も高いのは、「妊娠・出産を理由とした嫌がらせ」43.2%で、次いで「職場における差別待遇」43.1%、「暴力(DV) やストーカー行為、性暴力」40.2%の順に高くなっている。

一方、「特に問題と思うことはない」5.0%、「女性の人権問題は知らない」5.0%、「無回答」2.7%で、合計した12.7%が、女性問題に関して問題認識を持つに至っていない状況となっている。

性別で見ると、「男女の役割分担意識」では、女性32.1%、男性25.7%であり、女性が6.4ポイント高く、「女性の社会進出を支援する制度が未整備なこと」では、女性27.9%、男性22.2%であり、女性が5.7ポイント高くなっている。また、「職場や学校等における性的嫌がらせ」では、女性27.9%、男性41.4%であり、男性が13.5ポイント高くなっている。

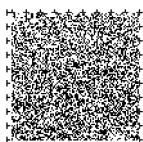


図17-① 女性の人権に関し、特に問題と思うもの(全体)

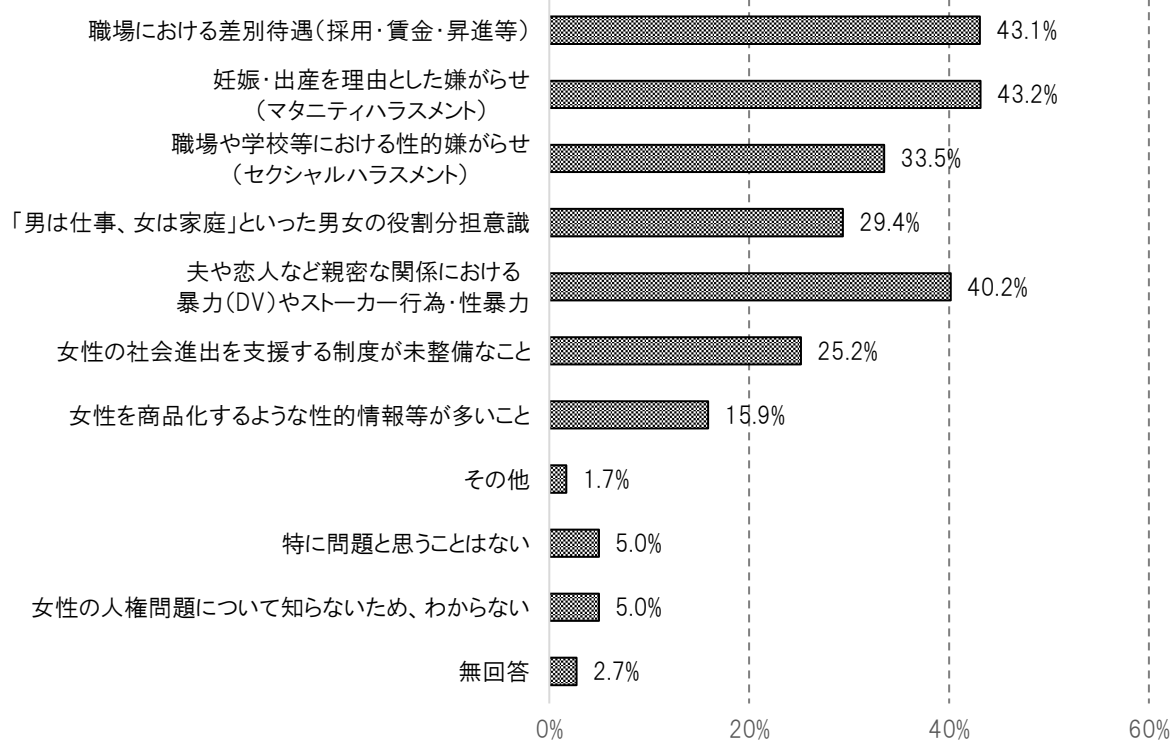


図17-② 女性の人権に関し、特に問題と思うもの(性別)

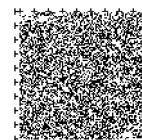
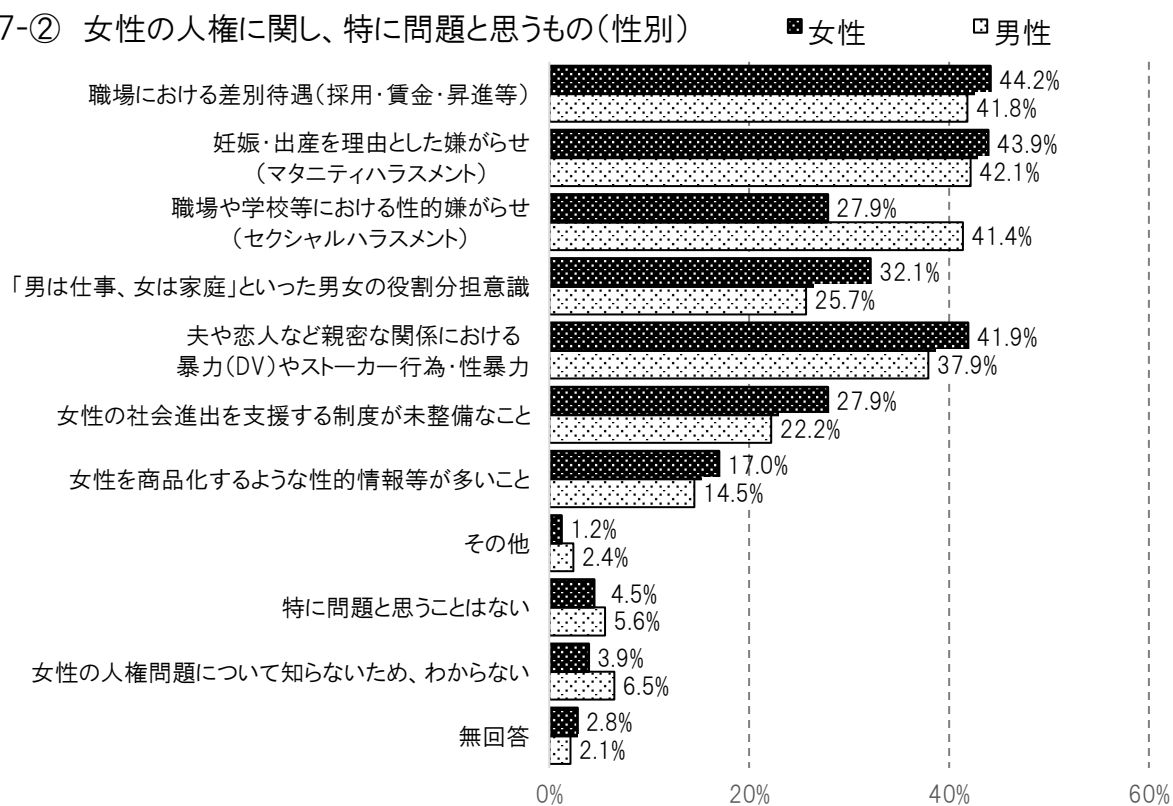
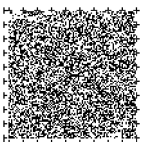
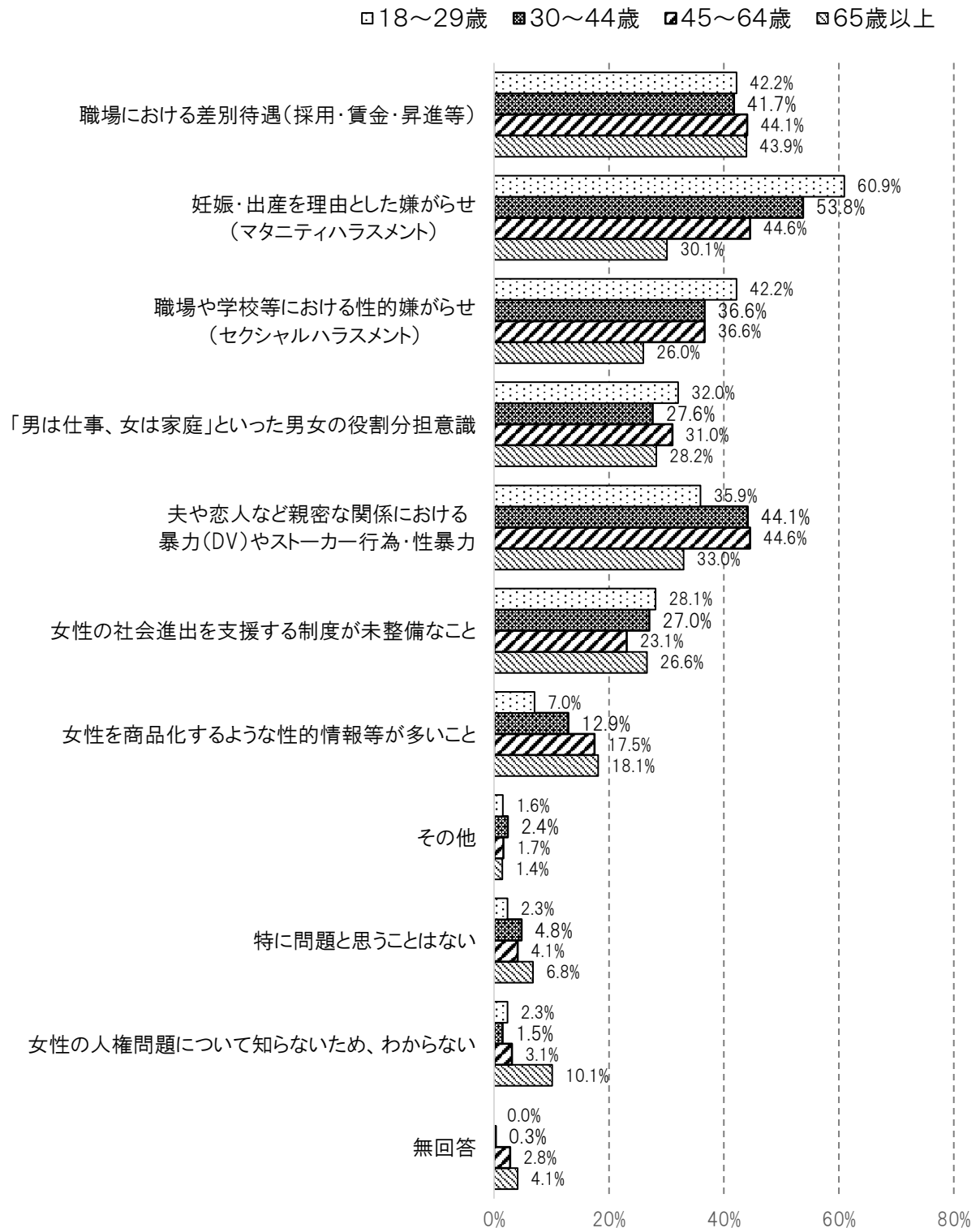


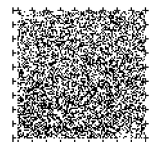
図17-③ 女性の人権に関し、特に問題と思うもの(年齢別)



年齢別で見ると、「18～29歳」では「妊娠・出産を理由とした嫌がらせ」の60.9%、「職場や学校等における性的嫌がらせ」の42.2%、「男女の役割分担意識」の32.0%、「女性の社会進出を支援する制度が未整備なこと」の28.1%で他の年齢と比べ、割合が最も高くなっている。「45～64歳」では「暴力（DV）やストーカー行為、性暴力」の44.6%、「職場における差別待遇」の44.1%で最も高く、「65歳以上」では「女性を商品化するような性的情報等が多いこと」の18.1%で最も高く、「30～44歳」では、最も高いものはない。

また、「65歳以上」では、「特に問題と思うことはない」6.8%、「女性の人権問題は知らない」10.1%、「無回答」4.1%であり、合計して21.0%と最も高くなっている。

職場の研修やマスコミ報道で取り上げられることが多い問題の割合が高くなったものと思われるが、「セクシャルハラスメント問題」について、加害者となる可能性が高い男性の方が、より強い関心を持っていることや、女性の人権に関する問題全般について、年齢による意識差が大きいことが分かる結果である。



問18 子どもの人権に関することから、特に問題であると思うものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。(複数回答)

表18 子どもの人権に関し、特に問題と思うもの

上段: 回答者数(人) 下段: 割合 (%)		合計	や保護者による育児放棄や虐待	子どもの貧困に関する問題	いじめ問題	子どもの意見やプライバシーを尊重する社会意識が不十分なこと	児童買春や児童ポルノなどの犯罪行為	子どもにとって有害な暴力的表現や性的情報が多いこと	子どもにとって有害な暴力的表現や性的情報が多いこと	教師やクラブ指導者等による体罰	その他	特に問題と思うことはない	子どもの人権問題について知らないため	無回答
全体		1,573	1,255	598	1,163	135	438	359	203	19	16	41	29	
		100.0	79.8	38.0	73.9	8.6	27.8	22.8	12.9	1.2	1.0	2.6	1.8	
性別	女性	890	719	355	657	67	256	226	123	8	3	19	15	
		100.0	80.8	39.9	73.8	7.5	28.8	25.4	13.8	0.9	0.3	2.1	1.7	
	男性	662	522	236	493	65	177	129	79	11	13	21	11	
	100.0	78.9	35.6	74.5	9.8	26.7	19.5	11.9	1.7	2.0	3.2	1.7		
	その他	3	2	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	
	100.0	66.7	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
年齢	18~29歳	128	104	48	98	16	34	23	24	2	1	2	0	
		100.0	81.3	37.5	76.6	12.5	26.6	18.0	18.8	1.6	0.8	1.6	0.0	
	30~44歳	333	290	163	243	33	101	52	29	6	2	6	1	
		100.0	87.1	48.9	73.0	9.9	30.3	15.6	8.7	1.8	0.6	1.8	0.3	
	45~64歳	606	487	247	456	41	169	137	80	7	4	10	10	
	100.0	80.4	40.8	75.2	6.8	27.9	22.6	13.2	1.2	0.7	1.7	1.7		
65歳以上	485	360	134	355	42	129	143	68	4	9	22	15		
	100.0	74.2	27.6	73.2	8.7	26.6	29.5	14.0	0.8	1.9	4.5	3.1		

子どもの人権に関することから、特に問題であると思うものとして、割合が最も高いのは、「保護者による育児放棄や虐待」79.8%で、次いで「いじめ問題」73.9%、「子どもの貧困に関する問題」38.0%となっており、上位2項目は7割を超えている。

一方、「特に問題と思うことはない」1.0%、「子どもの人権問題はわからない」2.6%、「無回答」1.8%、合計では5.4%となっており、子どもの人権問題に関する問題認識が高い状況となっている。

性別で見ると、「子どもにとって有害な暴力的表現や性的情報が多いこと」では、女性25.4%、男性19.5%で、女性が5.9ポイント高くなっている。他の項目では、大きな差は見られない。

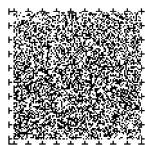


図18-① 子どもの人権に関し、特に問題と思うもの(全体)

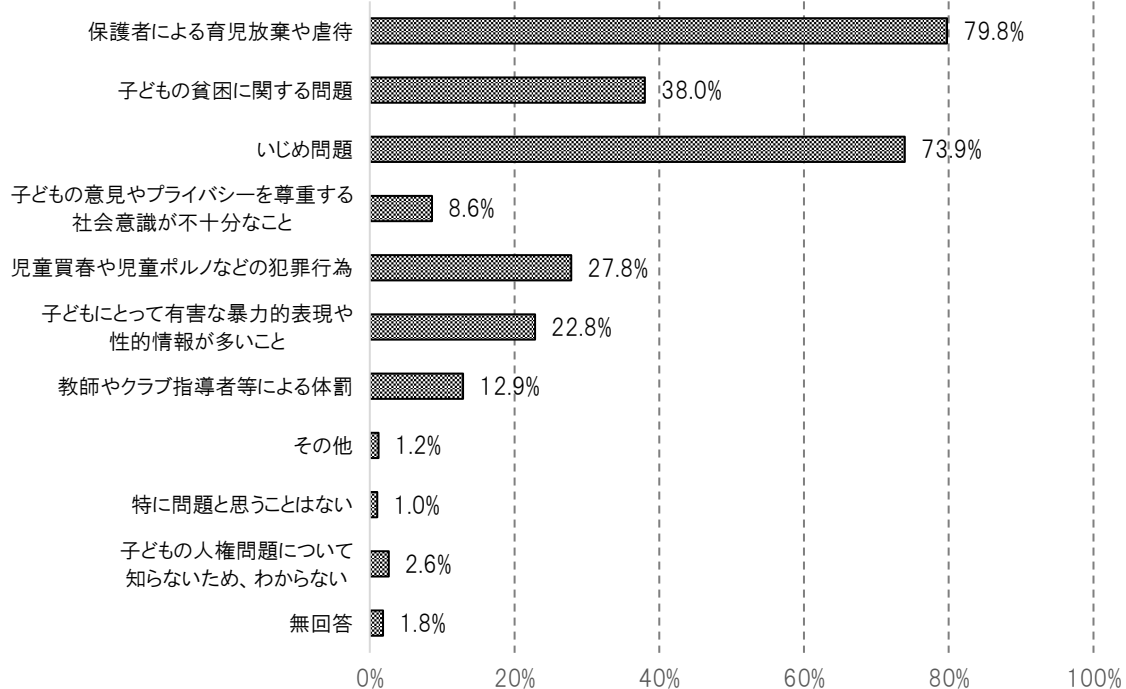


図18-② 子どもの人権に関し、特に問題と思うもの(性別)

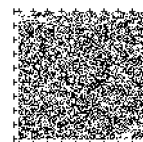
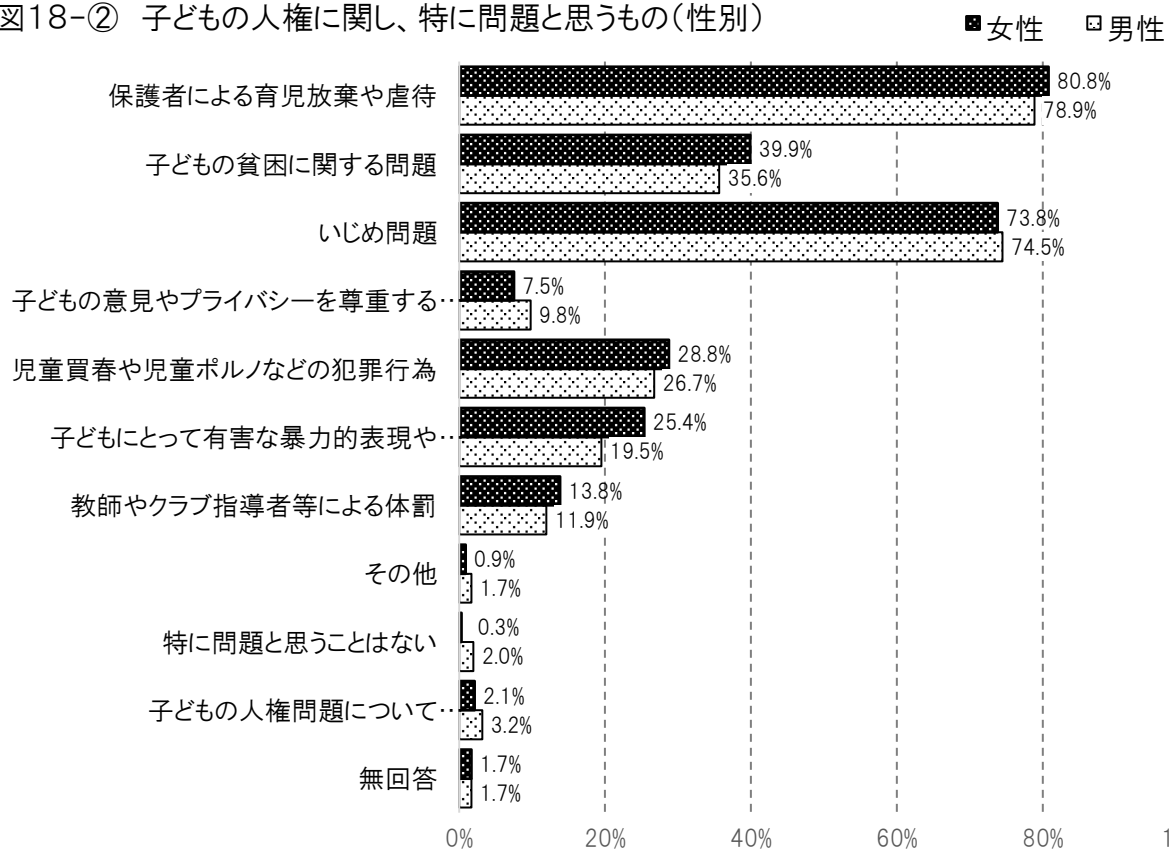
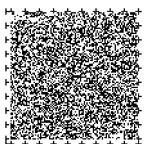
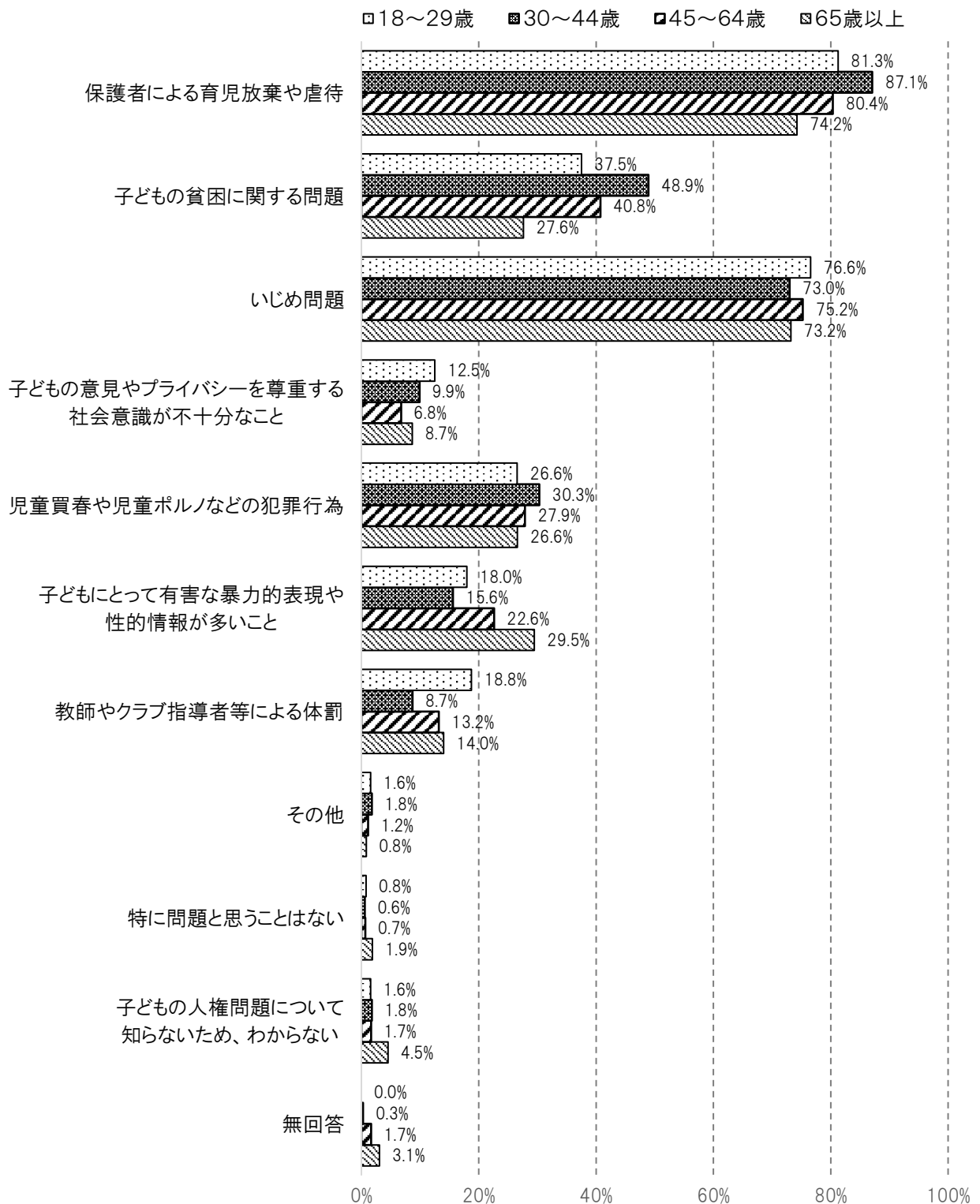


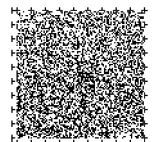
図18-③ 子どもの人権に関し、特に問題と思うもの(年齢別)



年齢別に見ると、「18～29 歳」では、「いじめ問題」の 76.6%、「教師やクラブ指導者等による体罰」の 18.8%、「子どもの意見やプライバシーを尊重する社会意識が不十分なこと」の 12.5%で他の年齢と比べ、割合が最も高くなっている。「30～44 歳」では「保護者による育児放棄や虐待」87.1%、「子どもの貧困に関する問題」48.9%、「児童買春や児童ポルノなどの犯罪行為」30.3%で最も高く、「65 歳以上」では「子どもにとって有害な暴力的表現や性的情報が多いこと」29.5%で最も高く、「45～64 歳」では、最も高いものはない。

また、「65 歳以上」では、「特に問題と思うことはない」1.9%、「子どもの人権問題はわからない」4.5%、「無回答」3.1%であり、合計して 9.5%と割合が最も高くなっている。

年齢による関心の違いを見ると、「18～29 歳」では、「いじめ」や「体罰」、「子どもの意見の尊重」等、当事者である子どもに近い視点で捉えた問題への関心が高く、「30～44 歳」では、「育児放棄や虐待」、「子どもの貧困」、「児童買春」等、子育てをする立場から捉えた問題への関心が高くなっているものと考えられる。



問19 高齢者の人権に関することがらで、特に問題であると思うものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。(複数回答)

表19 高齢者の人権に関し、特に問題と思うもの

上段:回答者数(人) 下段:割合(%)		合計	福祉・医療サービスの提供体制が十分でないこと	高齢者を狙った悪徳商法やニセ電話詐欺があること	高齢者に對する差別的言動や虐待行為があること	孤立した暮らしにつながる恐れがあること	社会や地域の関わりが薄いこと	生活に必要な情報が伝わりにくいこと	建物・階段や道路の段差などが少なく、不便が多いこと	その他	特に問題と思うことはない	高齢者の人権問題から知らないため、わからなくて	無回答
全体		1,573 100.0	730 46.4	1,031 65.5	457 29.1	922 58.6	362 23.0	437 27.8	18 1.1	35 2.2	29 1.8	23 1.5	
性別	女性	890 100.0	439 49.3	573 64.4	271 30.4	520 58.4	209 23.5	269 30.2	8 0.9	14 1.6	11 1.2	11 1.2	
	男性	662 100.0	284 42.9	445 67.2	179 27.0	394 59.5	147 22.2	164 24.8	10 1.5	21 3.2	18 2.7	9 1.4	
	その他	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	2 66.7	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
年齢	18~29歳	128 100.0	50 39.1	86 67.2	55 43.0	67 52.3	14 10.9	31 24.2	2 1.6	2 1.6	2 1.6	0 0.0	
	30~44歳	333 100.0	136 40.8	225 67.6	96 28.8	227 68.2	86 25.8	86 25.8	4 1.2	5 1.5	3 0.9	1 0.3	
	45~64歳	606 100.0	325 53.6	383 63.2	161 26.6	355 58.6	142 23.4	185 30.5	7 1.2	6 1.0	10 1.7	10 1.7	
	65歳以上	485 100.0	213 43.9	326 67.2	139 28.7	266 54.8	115 23.7	131 27.0	5 1.0	22 4.5	12 2.5	9 1.9	

高齢者の人権に関することがらで、特に問題であると思うものとして、割合が最も高いのは、「高齢者を狙った悪徳商法やニセ電話詐欺があること」65.5%で、次いで「孤立した暮らしにつながる恐れがあること」58.6%、「介護・福祉・医療サービスの提供体制が十分でないこと」46.4%の順に高くなっている。

一方、「特に問題と思うことはない」2.2%、「高齢者の人権はわからない」1.8%、「無回答」1.5%で、合計では5.5%となっており、高齢者の人権問題に関する問題意識が高い状況となっている。

性別で見ると、「介護・福祉・医療サービスの提供体制が十分でないこと」では、女性49.3%、男性42.9%であり、女性が6.4ポイント高く、「高齢者に配慮した施設が少なく、不便が多いこと」では、女性30.2%、男性24.8%であり、女性が5.4ポイント高くなっている。

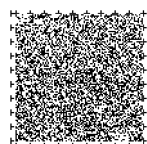


図19-① 高齢者の人権に関し、特に問題と思うもの(全体)

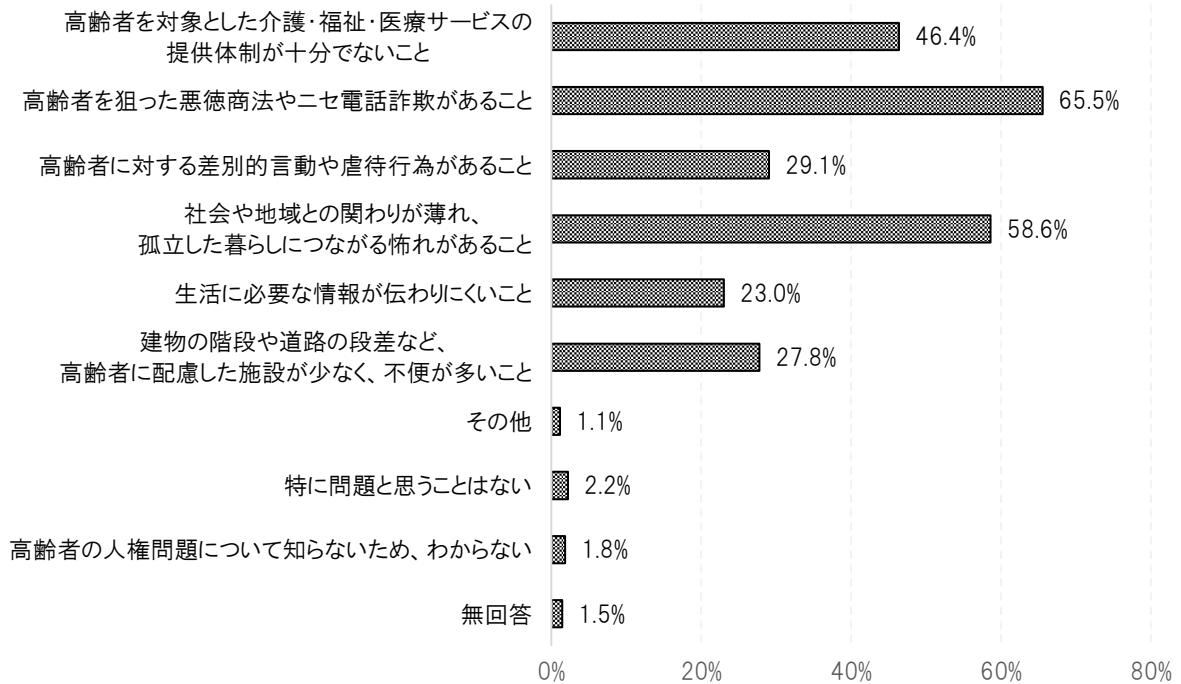


図19-② 高齢者の人権に関し、特に問題と思うもの(性別)

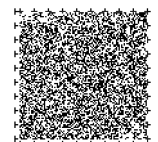
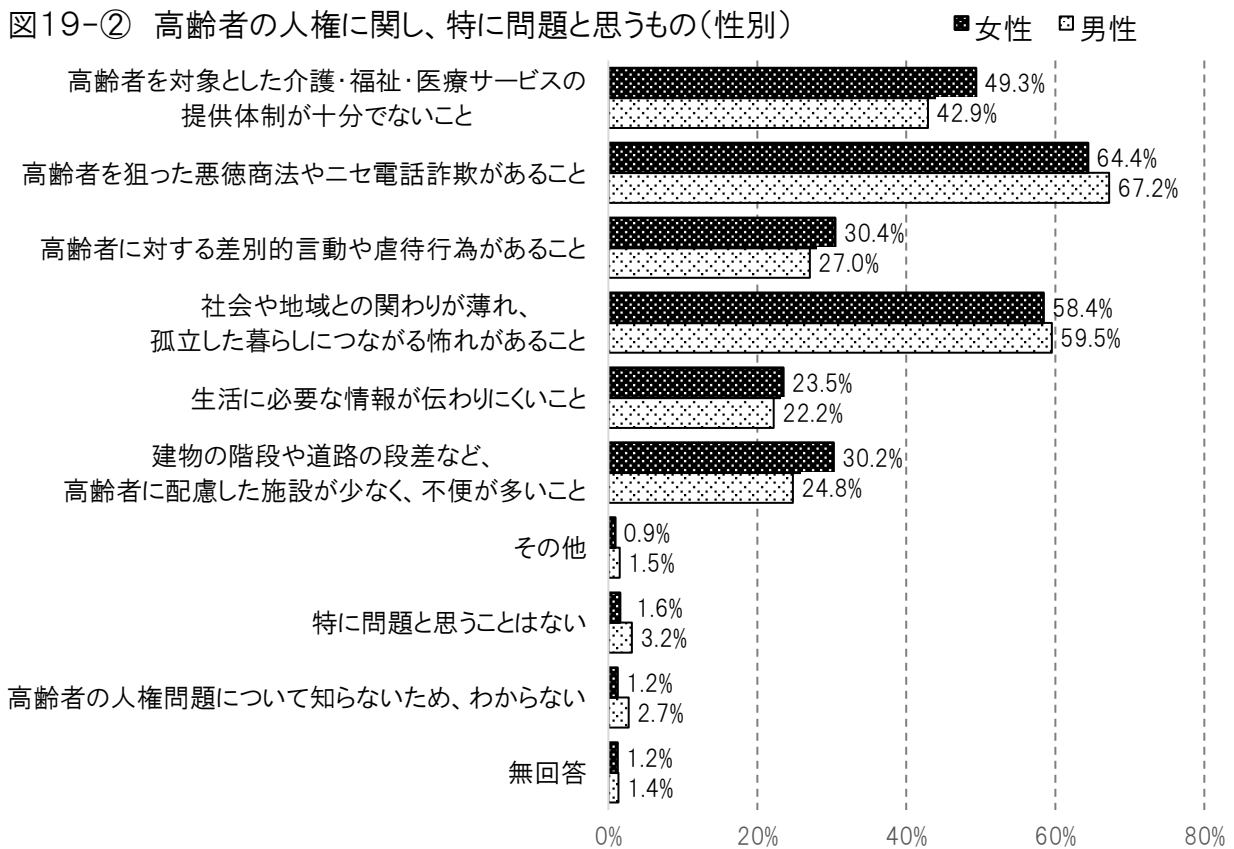
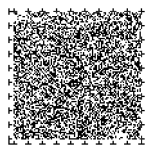
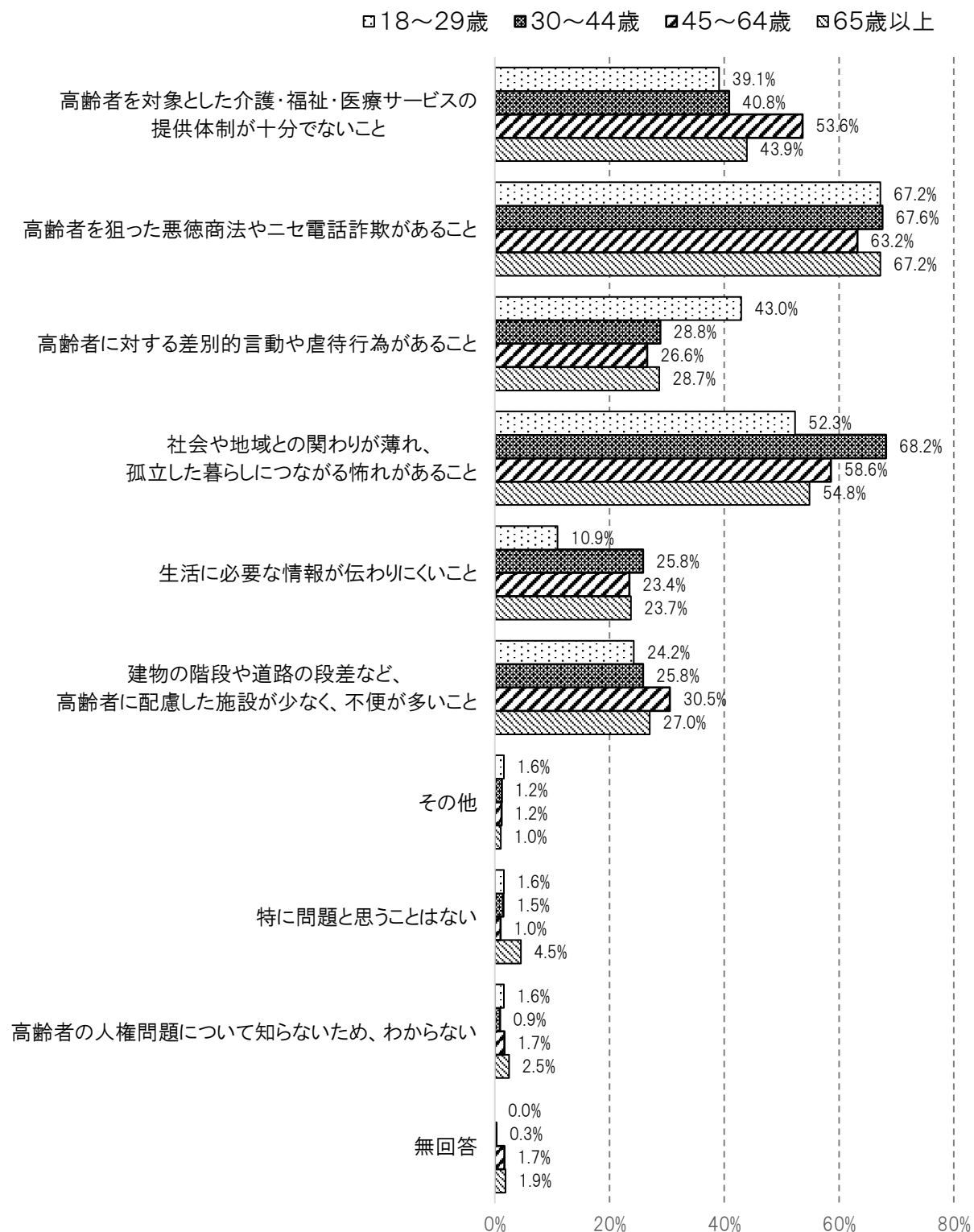


図19-③ 高齢者の人権に関し、特に問題と思うもの(年齢別)

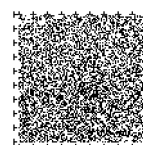


年齢別に見ると、「18～29歳」では「高齢者に対する差別的言動や虐待行為があること」の43.0%で他の年齢と比べ、割合が最も高くなっている。「30～44歳」では「孤立した暮らしにつながる怖れがあること」の68.2%、「高齢者を狙った悪徳商法やニセ電話詐欺があること」の67.6%、「生活に必要な情報が伝わりにくいこと」の25.8%で最も高く、「45～64歳」では「介護・福祉・医療サービスの提供体制が十分でないこと」の53.6%、「高齢者に配慮した施設が少なく、不便が多いこと」の30.5%で最も高くなっている。「65歳以上」では最も高いものはない。

一方、「65歳以上」では、「特に問題と思うことはない」4.5%、「高齢者の人権問題はわからない」2.5%、「無回答」1.9%であり、合計して8.9%と割合が最も高くなっている。

日常生活において高齢者と関わる機会が比較的少ない「18～29歳」と、直接介護等の支援をする（しなければならない）機会が多くなっている「30～44歳」と「45～64歳」の関心の違いがうかがわれる。

また、当事者とも言える「65歳以上」では、割合の平均値を上回るものとして「高齢者を狙った悪徳商法やニセ電話詐欺があること」67.2%、「生活に必要な情報が伝わりにくいこと」23.7%があり、当事者として、関心が高い状況となっている。



問20 障害者の人権に関することがらで、特に問題であると思うものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。(複数回答)

表20 障害者の人権に関し、特に問題と思うもの

		合計	な確働 保くため ことなど 就労支 援が働 不十分 場の分	や障 害者 に 対 す る 差 別 的 言 動	制福障 度社害 が・を 不医対 十分療象 な関と ことす した 施設 や・	がど建 少、物 なく障 、害の 者、階 不、段 便にや が多配 い慮道 こと路 と多の い段 こと差 と設な	のア 入パー 居がト 困な 難の 集合 住宅 へ	に生 活に 必 要 な 情 報 が 伝 わ り	ト等 がに 不参 十分加 なす ことる ため の地 域行 事	そ の 他	特 に 問 題 と 思 う こ と は な い	知障 ら害 ない者 いたの た人 め権 、問 わ題 からにつ いて	無 回 答	
上段:回答者数(人) 下段:割合(%)														
全体		1,573 100.0	867 55.1	752 47.8	633 40.2	586 37.3	250 15.9	219 13.9	127 8.1	22 1.4	39 2.5	165 10.5	34 2.2	
性別	女性	890 100.0	494 55.5	453 50.9	334 37.5	350 39.3	138 15.5	127 14.3	66 7.4	12 1.3	16 1.8	95 10.7	18 2.0	
	男性	662 100.0	362 54.7	289 43.7	296 44.7	231 34.9	110 16.6	86 13.0	60 9.1	10 1.5	23 3.5	67 10.1	13 2.0	
	その他	3 100.0	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18~29歳	128 100.0	71 55.5	93 72.7	38 29.7	46 35.9	26 20.3	16 12.5	8 6.3	2 1.6	6 4.7	4 3.1	0 0.0	
	30~44歳	333 100.0	205 61.6	199 59.8	116 34.8	119 35.7	54 16.2	49 14.7	26 7.8	7 2.1	6 1.8	18 5.4	1 0.3	
	45~64歳	606 100.0	354 58.4	275 45.4	291 48.0	239 39.4	111 18.3	76 12.5	43 7.1	10 1.7	9 1.5	51 8.4	16 2.6	
	65歳以上	485 100.0	229 47.2	177 36.5	185 38.1	177 36.5	59 12.2	73 15.1	49 10.1	3 0.6	18 3.7	87 17.9	13 2.7	

障害者の人権に関することがらで、特に問題であると思うものとして、割合が最も高いのは、「就労支援が不十分なこと」55.1%で、次いで「障害者に対する差別的言動や虐待行為があること」47.8%、「介護・福祉・医療に関する施設や制度が不十分なこと」40.2%の順に高くなっている。

一方、「特に問題と思うことはない」2.5%、「障害者の人権問題はわからない」10.5%、「無回答」2.2%で、合計した15.2%が、障害者問題に関して問題認識を持つに至っていない状況となっている。

性別で見ると、「障害者に対する差別的言動や虐待行為があること」では女性50.9%、男性43.7%であり、女性が7.2ポイント高く、「介護・福祉・医療に関する施設や制度が不十分なこと」では女性37.5%、男性44.7%であり、男性が7.2ポイント高くなっている。

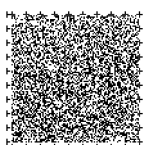


図20-① 障害者の人権に関し、特に問題と思うもの(全体)

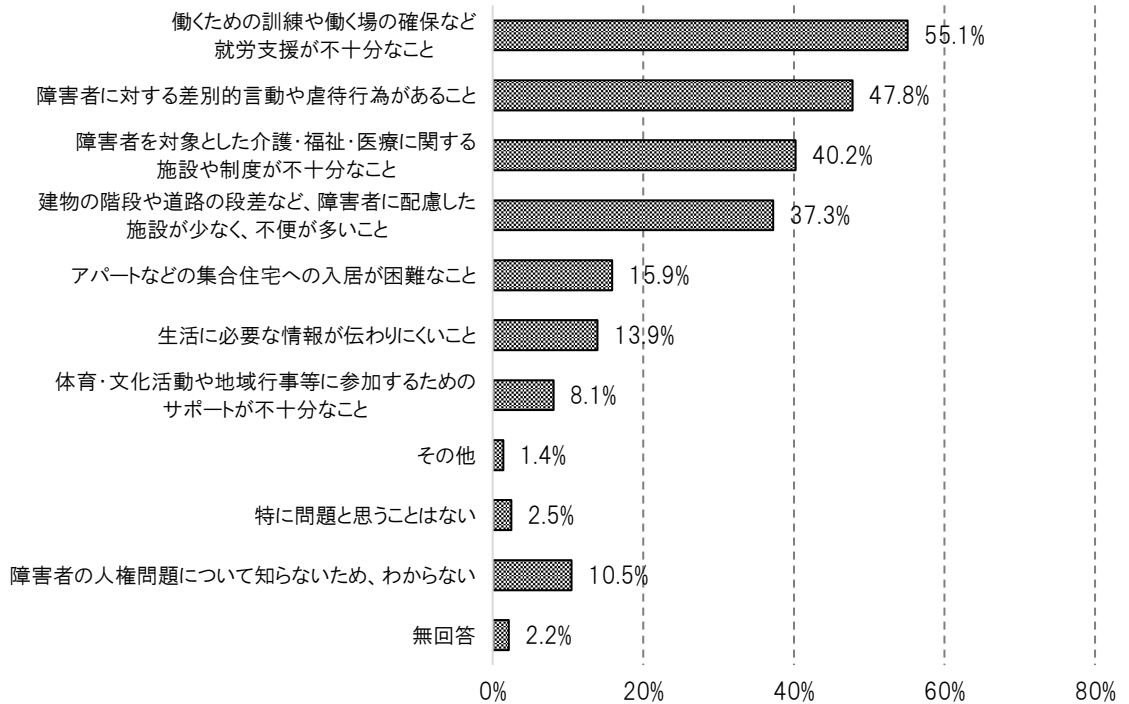


図20-② 障害者の人権に関し、特に問題と思うもの(性別)

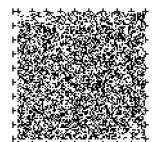
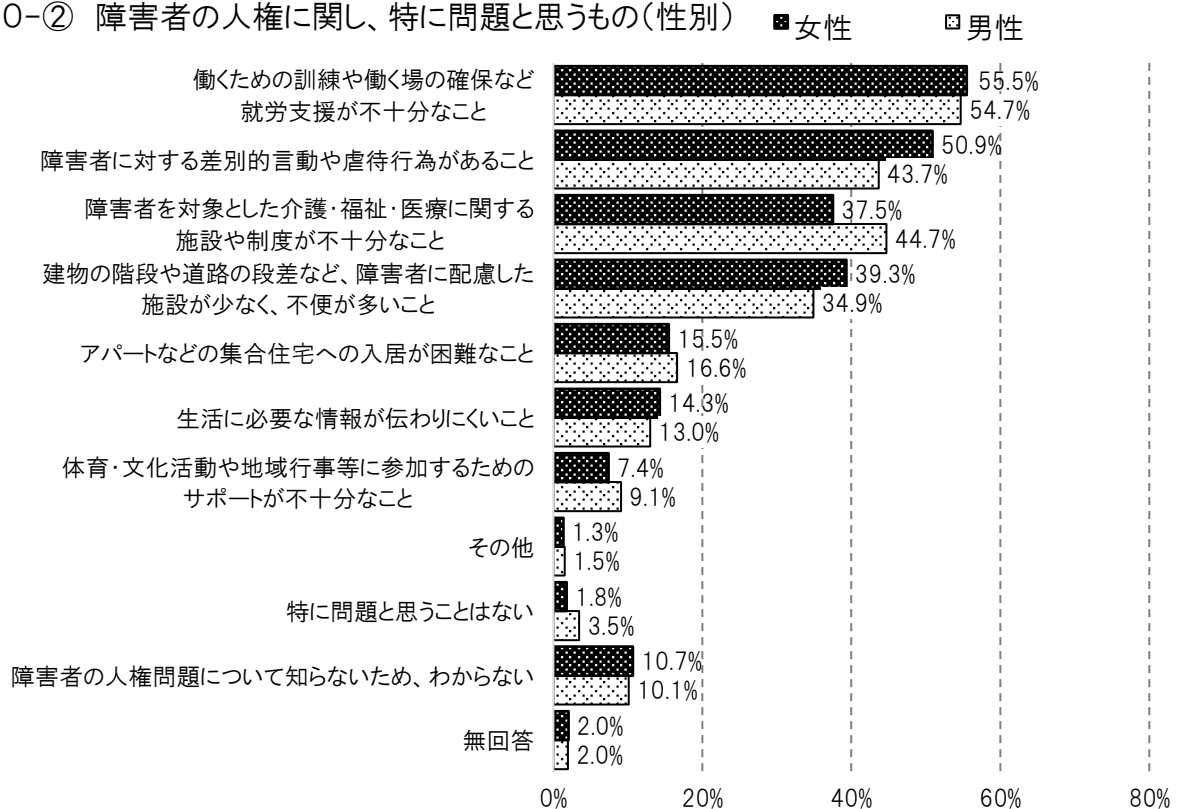
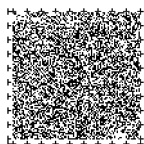
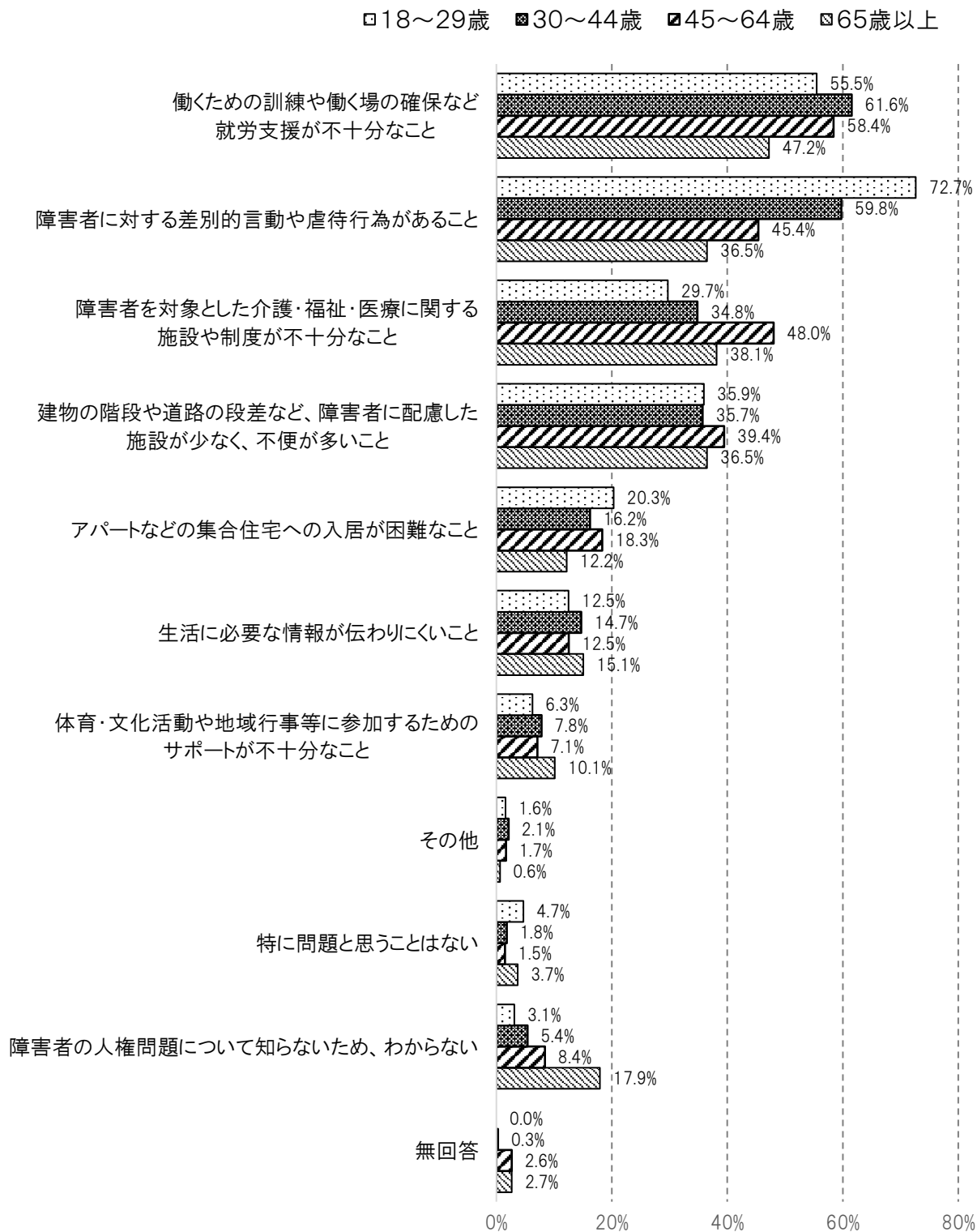


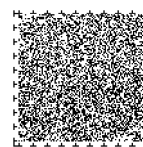
図20-③ 障害者の人権に関し、特に問題と思うもの(年齢別)



年齢別で見ると、「18～29歳」では「障害者に対する差別的言動や虐待行為があること」の72.7%、「集合住宅への入居が困難なこと」の20.3%で他の年齢と比べ、割合が最も高くなっている。「30～44歳」では「就労支援が不十分なこと」の61.6%で最も高く、「45～64歳」では「介護・福祉・医療に関する施設や制度が不十分なこと」の48.0%、「障害者に配慮した施設が少なく、不便が多いこと」の39.4%で最も高くなっている。「65歳以上」では「生活に必要な情報が伝わりにくいこと」の15.1%、「地域行事等に参加するためのサポートが不十分なこと」の10.1%で最も高くなっている。

また、「65歳以上」では、「特に問題と思うことはない」3.7%、「障害者の人権問題は知らない」17.9%、「無回答」2.7%であり、合計して24.3%と割合が最も高くなっている。

しかし、他の人権課題で「65歳以上」が最大値を示した選択肢は少ない中、障害者の人権問題に関しては「65歳以上」が最大値を示した選択肢が2つ、2番目の割合となったものも2つある。平成23年度厚生労働省調査で、身体障害者手帳保持者393.7万人(総人口の3.1%)の内265.5万人(68.7%)が65歳以上となっていることも踏まえると、「65歳以上」が自らの日常に近い問題として障害者問題を捉えているものと考えられる。



問21 外国人の人権に関することがらで、特に問題であると思うものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。(複数回答)

表21 外国人の人権に関し、特に問題と思うもの

		合計	こと(外国人に対する差別言動)	教育・就労・居住等における差別待遇があること	がより、文化・地域社会の理解不足に	便十分であること	施設に外国語表示などが不十分	行政情報のお知らせ、公	その他	特に問題と思うことはない	外国人の人権問題について	無回答
上段:回答者数(人) 下段:割合(%)												
全体		1,573	498	455	787	457	388	15	104	368	48	
		100.0	31.7	28.9	50.0	29.1	24.7	1.0	6.6	23.4	3.1	
性別	女性	890	274	258	429	250	228	4	40	229	31	
		100.0	30.8	29.0	48.2	28.1	25.6	0.4	4.5	25.7	3.5	
	男性	662	223	193	348	203	156	11	63	134	14	
		100.0	33.7	29.2	52.6	30.7	23.6	1.7	9.5	20.2	2.1	
	その他	3	0	0	2	1	1	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
年齢	18~29歳	128	54	50	84	37	29	3	3	14	0	
		100.0	42.2	39.1	65.6	28.9	22.7	2.3	2.3	10.9	0.0	
	30~44歳	333	134	110	177	106	87	4	30	50	2	
		100.0	40.2	33.0	53.2	31.8	26.1	1.2	9.0	15.0	0.6	
	45~64歳	606	214	194	319	188	154	5	29	126	18	
		100.0	35.3	32.0	52.6	31.0	25.4	0.8	4.8	20.8	3.0	
	65歳以上	485	94	97	199	122	116	3	40	172	24	
		100.0	19.4	20.0	41.0	25.2	23.9	0.6	8.2	35.5	4.9	

外国人の人権に関することがらで、特に問題であると思うものとして、割合が最も高いのは、「異文化に対する理解不足により、地域社会の受け入れが不十分なこと」50.0%で、次いで「外国人に対する差別的言動があること」31.7%、「施設に外国語表示などが不十分なため、利用の際に不便であること」29.1%、「教育・就労・居住等における差別待遇があること」28.9%の順に高くなっている。

一方、「特に問題と思うことはない」6.6%、「外国人の人権問題はわからない」23.4%、「無回答」3.5%を合わせると、合計33.1%となり、3割を超える回答者が外国人の人権問題に関して問題認識を持つに至っていない状況となっている。

性別に見ると、具体的な問題項目では、大きな差は見られないが、「外国人の人権問題はわからない」では、女性25.7%、男性20.2%であり、女性が5.5ポイント高く、「特に問題と思うことはない」では、女性4.5%、男性9.5%であり、男性が5ポイント高くなっている。

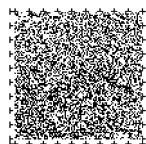


図21-① 外国人の人権に関し、特に問題と思うもの(全体)

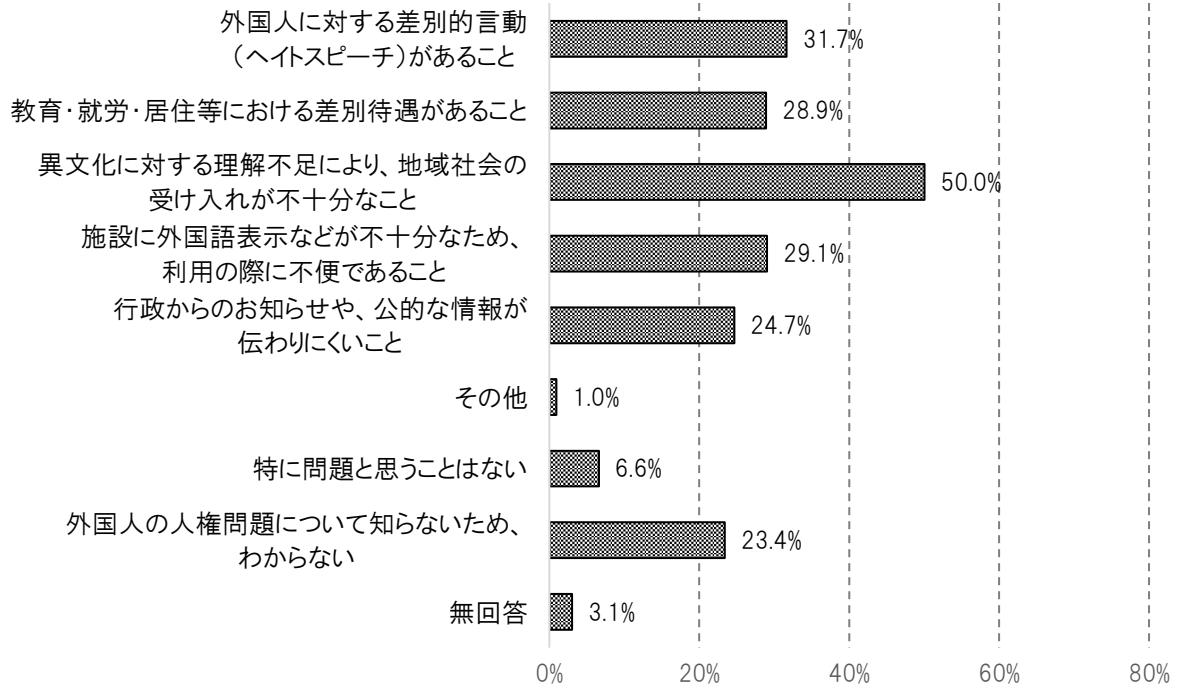


図21-② 外国人の人権に関し、特に問題と思うもの(性別)

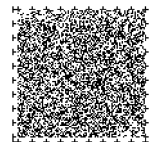
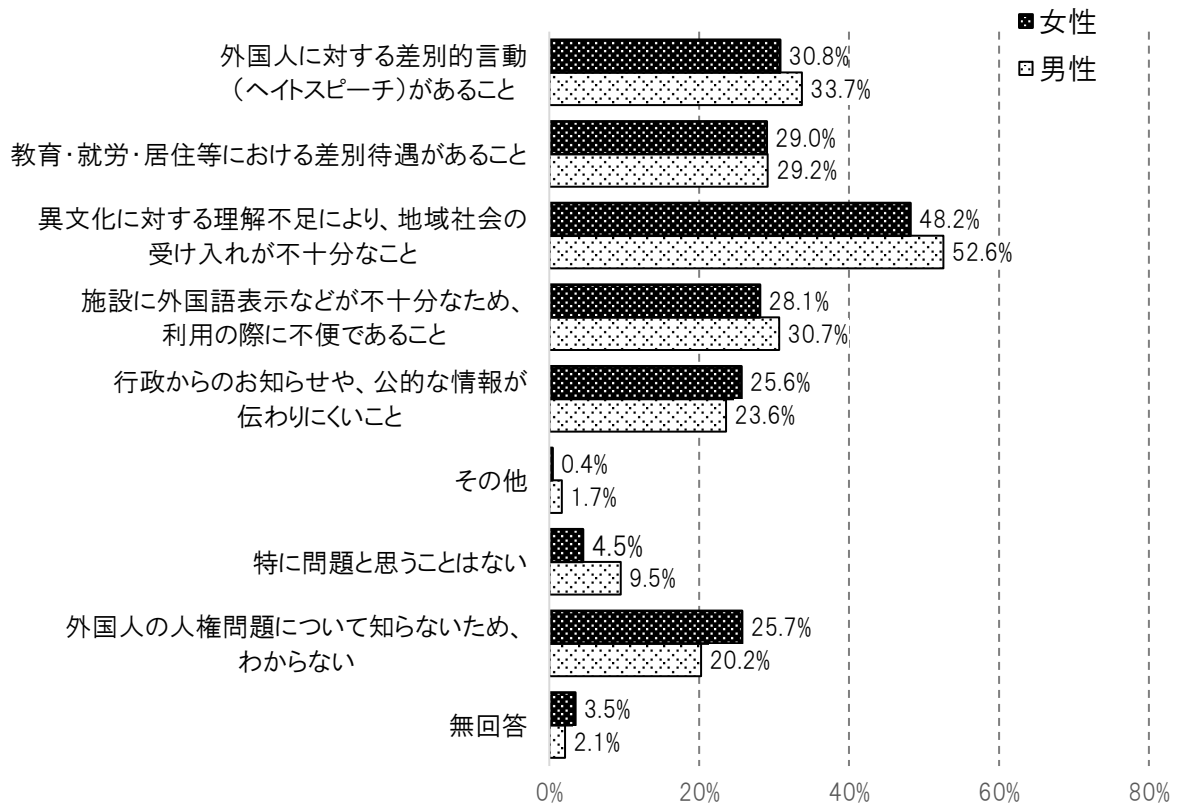
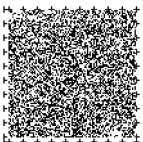
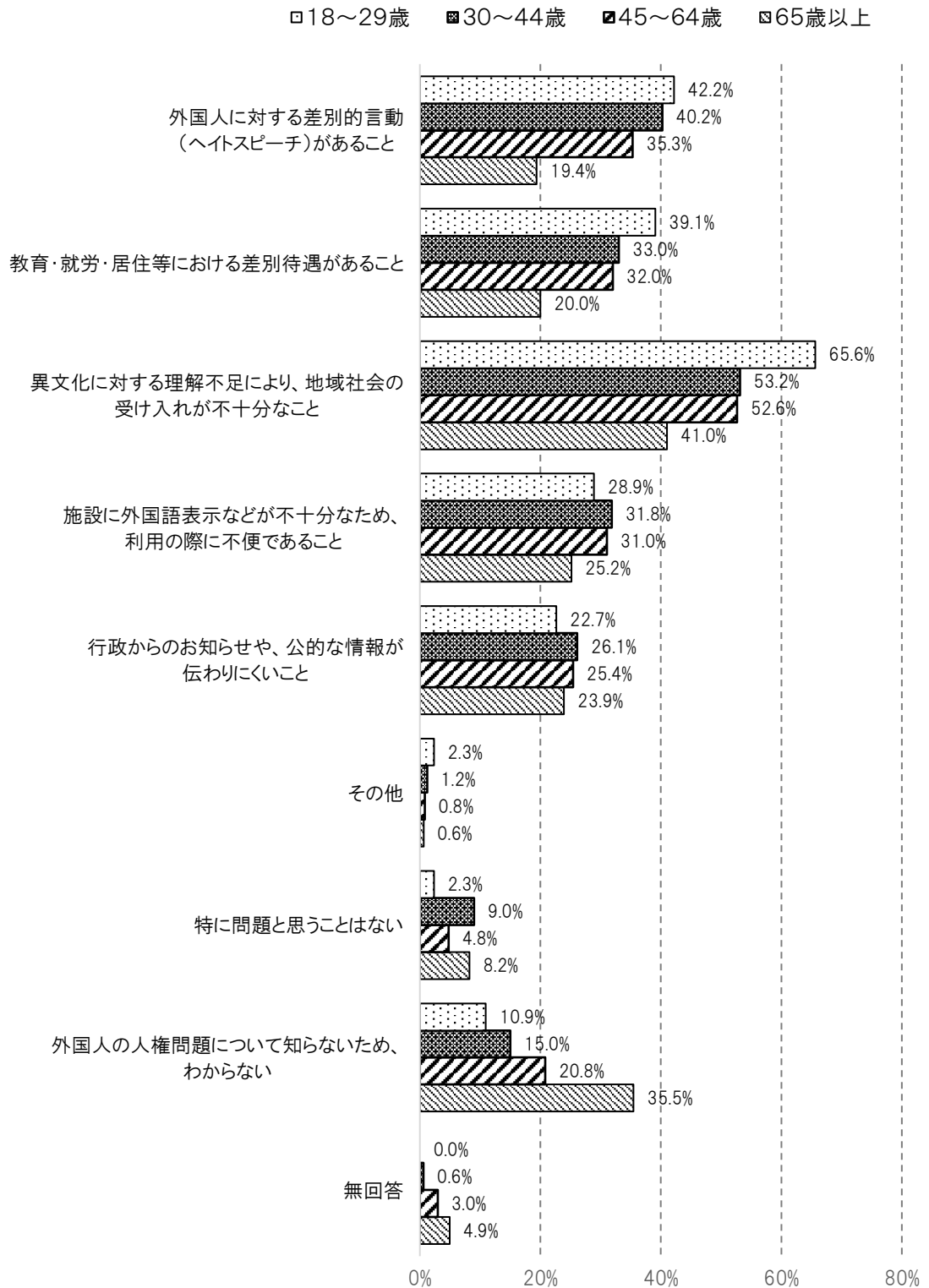


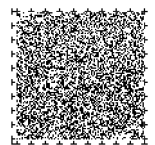
図21-③ 外国人の人権に関し、特に問題と思うもの(年齢別)



年齢別に見ると、「18～29 歳」では「異文化に対する理解不足により、地域社会の受け入れが不十分なこと」の 65.6%、「外国人に対する差別的言動があること」の 42.2%、「教育・就労・居住等における差別待遇があること」の 39.1%で他の年齢と比べ、割合が最も高くなっている。「30～44 歳」では「施設に外国語表示などが不十分なため、利用の際に不便であること」の 31.8%、「行政からのお知らせや、公的な情報が伝わりにくいこと」の 26.1%で最も高く、「45～64 歳」と「65 歳以上」では、最も高いものはない。

また、「45～64 歳」では、「特に問題と思うことはない」4.8%、「外国人の人権問題はわからない」20.8%、「無回答」3.0%で合計 28.6%、「65 歳以上」では、それぞれ 8.2%、35.5%、4.9%で合計 48.6%と高い割合となっており、特に「65 歳以上」で、約 5 割の回答者が問題意識を持つに至っていない状況となっている。

外国籍住民には、最近外国から来て日本で暮らすようになった人たちと、歴史的背景において日本で暮らすようになり、長く地域社会の一員として生活している人たちがいる。回答割合で上位となった「異文化に対する理解不足により、地域社会の受け入れが不十分なこと」や「施設に外国語表示などが不十分なため、利用の際に不便であること」は、最近外国から来て日本で暮らすようになった人たちに関する問題であり、前者の人権問題として、外国人の人権問題を意識している人が多くなっているものと考えられる。



問 2 2 HIV感染者やその家族等の人権に関することからで、特に問題であると思
うものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。(複数回答)

表 22 HIV感染者やその家族等の人権に関し、特に問題と思うもの

		合 計	学 職 場 や 学 校 、 不 利 な 扱 い 、 そ し て 就 職 や 進 学	こ と 族 感 染 者 が 特 別 な 目 で み ら れ る こ と	他 感 染 者 に 伝 え ら れ る こ と	等 医 療 機 関 な ど か ら 治 療 や 入 院 を 断 ら れ る こ と	迫 結 婚 で 反 対 さ れ た り 、 離 婚 を し た こ と	本 人 に 無 断 で エ イ ズ 検 査 を す る こ と	そ の 他	特 に 問 題 と 思 う こ と は な い	た の H I V 感 染 者 や そ の 家 族 な ど の 人 権 問 題 に つ い て 知 ら な い	無 回 答
上段:回答者数(人) 下段:割合(%)												
全体		1,573 100.0	496 31.5	731 46.5	529 33.6	350 22.3	233 14.8	97 6.2	11 0.7	62 3.9	510 32.4	49 3.1
性別	女性	890 100.0	272 30.6	410 46.1	320 36.0	202 22.7	150 16.9	55 6.2	1 0.1	21 2.4	294 33.0	31 3.5
	男性	662 100.0	218 32.9	317 47.9	202 30.5	144 21.8	82 12.4	42 6.3	10 1.5	41 6.2	208 31.4	15 2.3
	その他	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
年齢	18~29歳	128 100.0	46 35.9	61 47.7	47 36.7	41 32.0	26 20.3	13 10.2	2 1.6	3 2.3	30 23.4	0 0.0
	30~44歳	333 100.0	126 37.8	186 55.9	122 36.6	80 24.0	60 18.0	26 7.8	2 0.6	16 4.8	78 23.4	2 0.6
	45~64歳	606 100.0	201 33.2	299 49.3	236 38.9	148 24.4	83 13.7	35 5.8	4 0.7	18 3.0	178 29.4	19 3.1
	65歳以上	485 100.0	116 23.9	182 37.5	118 24.3	79 16.3	62 12.8	23 4.7	3 0.6	24 4.9	217 44.7	24 4.9

HIV感染者やその家族等の人権に関することからで、特に問題であると思うものとして、割合が最も高いのは、「特別な目でみられること」46.5%で、次いで「情報が無断で他人に伝えられること」33.6%、「就職や進学で不利な扱いを受けること」31.5%の順に高くなっている。

一方、「特に問題と思うことはない」3.9%、「HIV感染者やその家族などの人権問題はわからない」32.4%、「無回答」3.1%を合わせると、合計39.4%となり、約4割がHIV感染者やその家族等の人権問題に関して問題認識を持つに至っていない状況となっている。

性別で見ると、「情報が無断で他人に伝えられること」女性36.0%、男性30.5%であり、女性が5.5ポイント高くなっている。

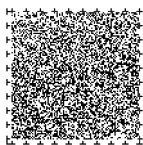


図22-① HIV感染者やその家族等の人権に関し、特に問題と思うもの(全体)

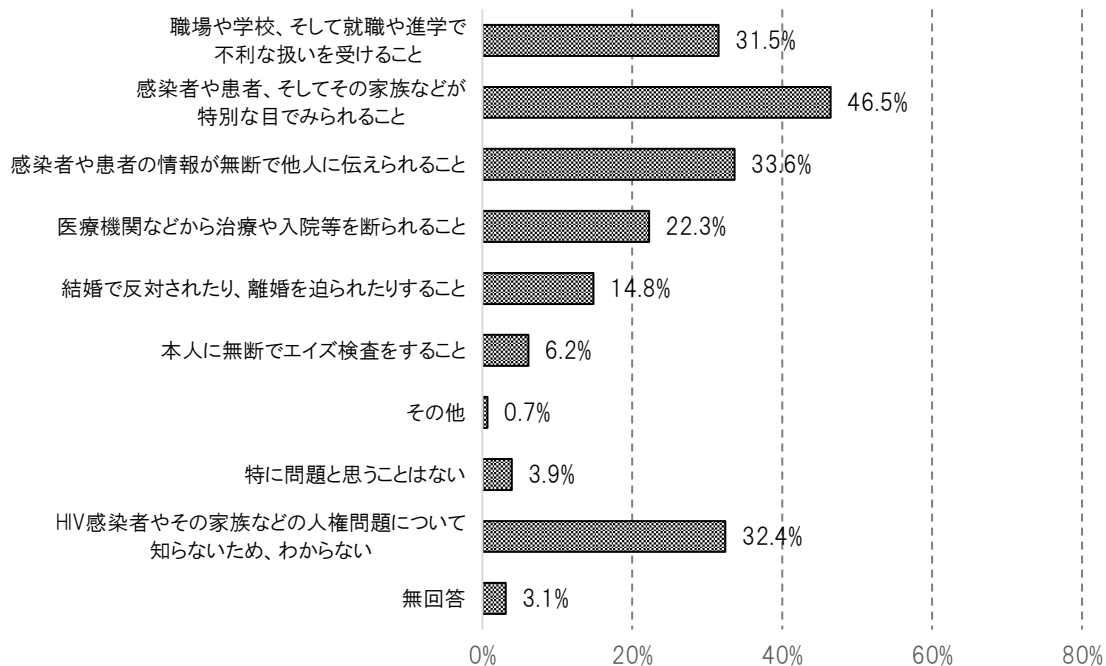


図22-② HIV感染者やその家族等の人権に関し、特に問題と思うもの(性別)

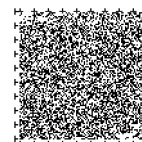
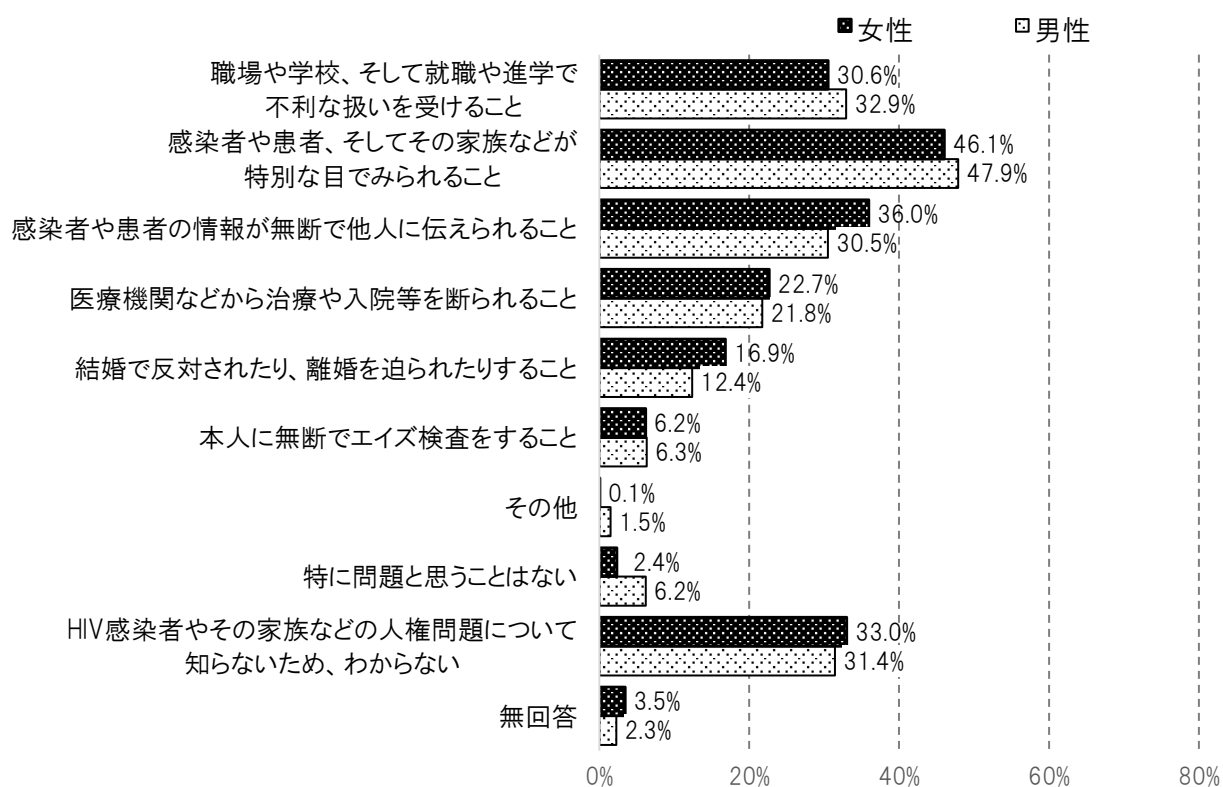
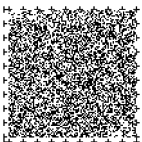
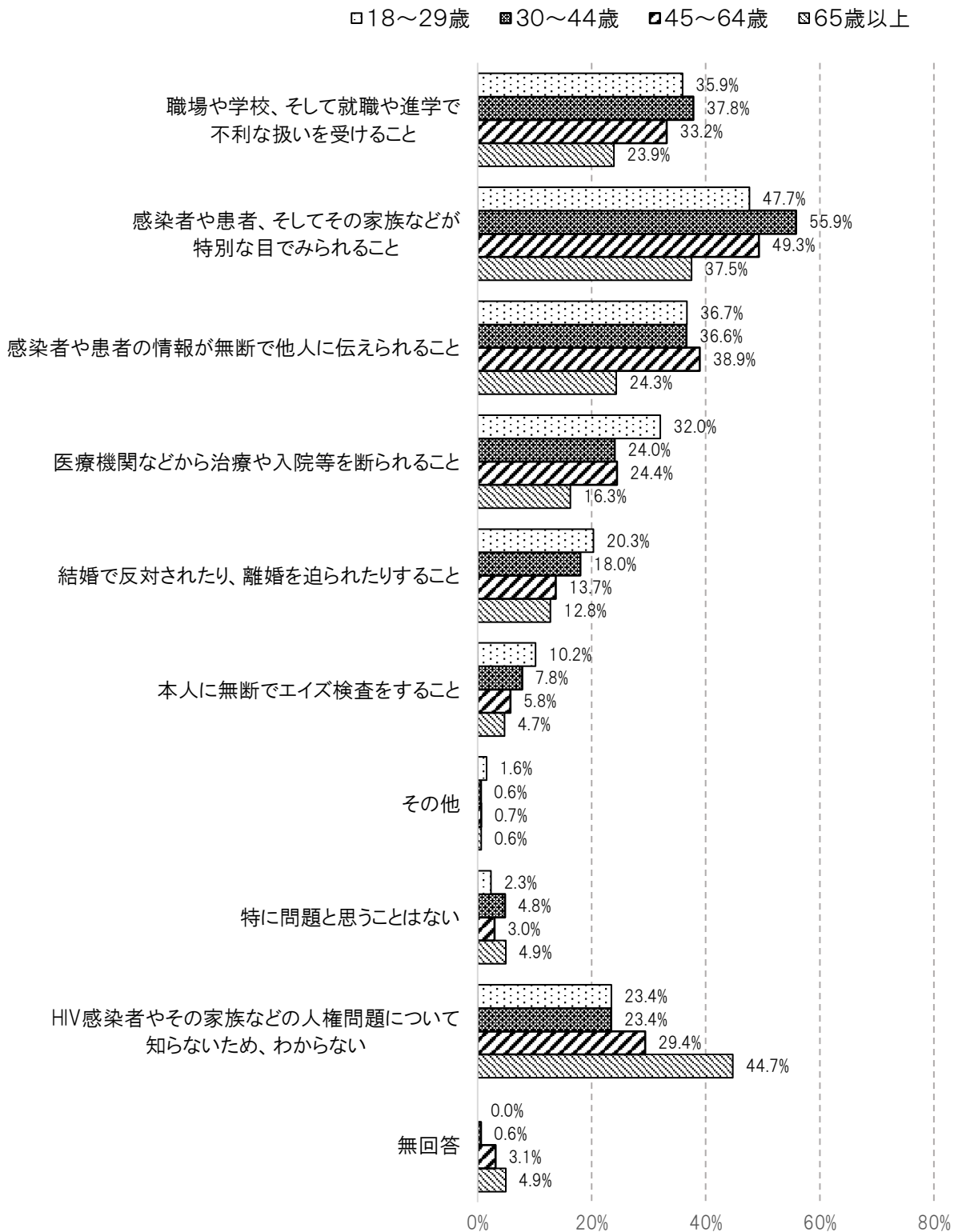
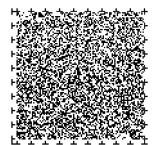


図22-③ HIV感染者やその家族等の人権に関し、特に問題と思うもの(年齢別)



年齢別で見ると、「18～29歳」では「治療や入院等を断られること」32.0%、「結婚で反対されたり、離婚を迫られたりすること」20.3%、「無断でエイズ検査をすること」10.2%で他の年齢と比べ、割合が最も高くなっている。「30～44歳」では「特別な目でみられること」55.9%、「就職や進学で不利な扱いを受けること」37.8%で最も高く、「45～64歳」では「情報が無断で他人に伝えられること」38.9%で最も高く、「65歳以上」では、最も高いものはない。

また、「45～64歳」では、「特に問題と思うことはない」3.0%、「HIV感染者やその家族等の人権問題はわからない」29.4%、「無回答」3.1%で合計35.5%、「65歳以上」では、それぞれ4.9%、44.7%、4.9%で合計54.5%と割合がかなり高くなっており、特に「65歳以上」では、5割を超える回答者が問題認識を持つに至っていない状況となっている。



問23 ハンセン病患者・回復者やその家族等の人権に関することがらで、特に問題であると思うものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。(複数回答)

表 23 ハンセン病患者・回復者やその家族等の人権に関し、特に問題と思うもの

		合計	地理的 理解が 不十分 である こと	自立した 生活で あるこ と	ハンセン 病療養 所以外 では	言動に さらさ れるこ と	家族な どが差 別的な 情報や	感染者 や患者 、その 情報	宿泊施 設の利 用や店 舗等へ	アパート などの 集合住 宅へ	その他	特に問 題と思 うこと はない	ハンセン 病患者 やその 家族	無回 答
上段: 回答者数(人) 下段: 割合 (%)														
全体		1,573 100.0	811 51.6	474 30.1	640 40.7	312 19.8	115 7.3	2 0.1	48 3.1	524 33.3	47 3.0			
性別	女性	890 100.0	451 50.7	277 31.1	354 39.8	180 20.2	65 7.3	1 0.1	20 2.2	302 33.9	28 3.1			
	男性	662 100.0	353 53.3	194 29.3	281 42.4	128 19.3	49 7.4	1 0.2	28 4.2	214 32.3	15 2.3			
	その他	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0		
年齢	18~29歳	128 100.0	70 54.7	31 24.2	50 39.1	26 20.3	7 5.5	0 0.0	3 2.3	47 36.7	0 0.0			
	30~44歳	333 100.0	189 56.8	105 31.5	150 45.0	74 22.2	24 7.2	0 0.0	5 1.5	101 30.3	3 0.9			
	45~64歳	606 100.0	326 53.8	203 33.5	267 44.1	124 20.5	46 7.6	1 0.2	12 2.0	184 30.4	21 3.5			
	65歳以上	485 100.0	219 45.2	133 27.4	168 34.6	85 17.5	37 7.6	1 0.2	27 5.6	185 38.1	18 3.7			

ハンセン病患者・回復者やその家族等の人権に関することがらで、特に問題があるものとして、最も割合が高いのは、「正しい知識と理解が不十分であること」51.6%で、次いで「差別的な情報や言動にさらされること」40.7%、「自立した生活を営むことが困難であること」30.1%の順に高くなっている。

一方、「特に問題とすることはない」3.1%、「ハンセン病患者等の人権問題は知らない」33.3%、「無回答」3.0%を合わせると、合計39.4%となり、約4割がハンセン病患者等の人権問題に関して問題認識を持つに至っていない状況となっている。

性別で見ると、大きな差は見られない。

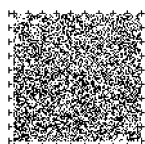


図23-① ハンセン病患者・回復者やその家族等の人権に関し、特に問題と思うもの(全体)

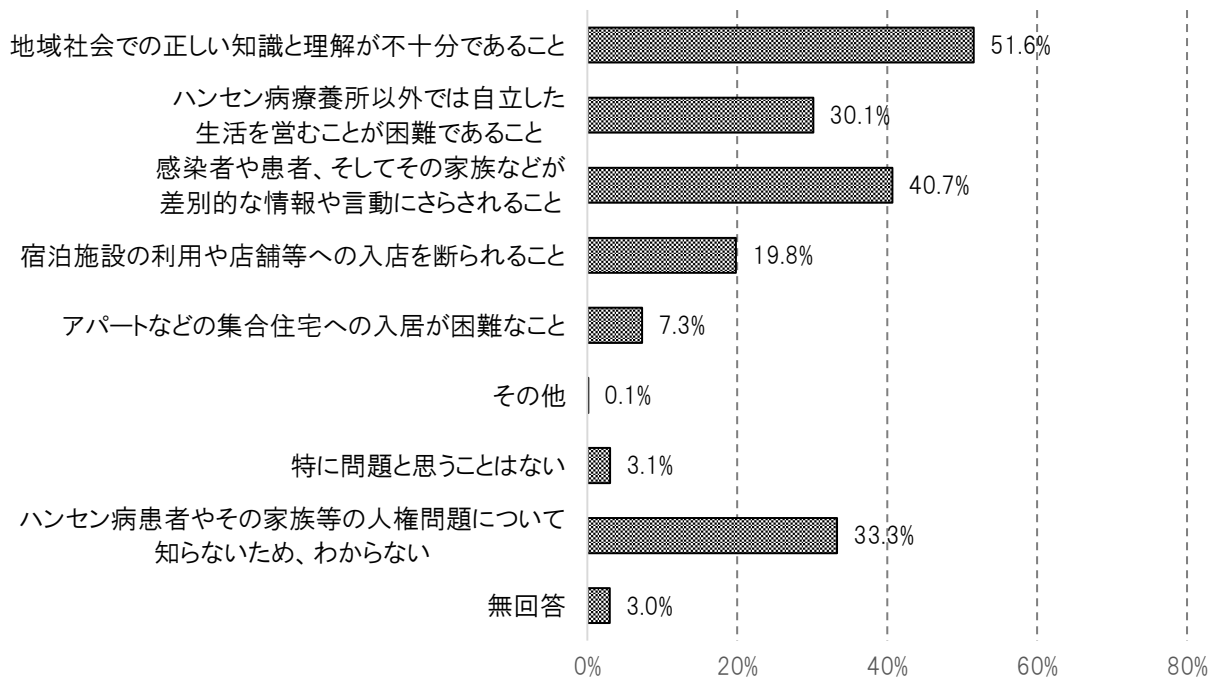


図23-② ハンセン病患者・回復者やその家族等の人権に関し、特に問題と思うもの(性別)

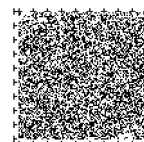
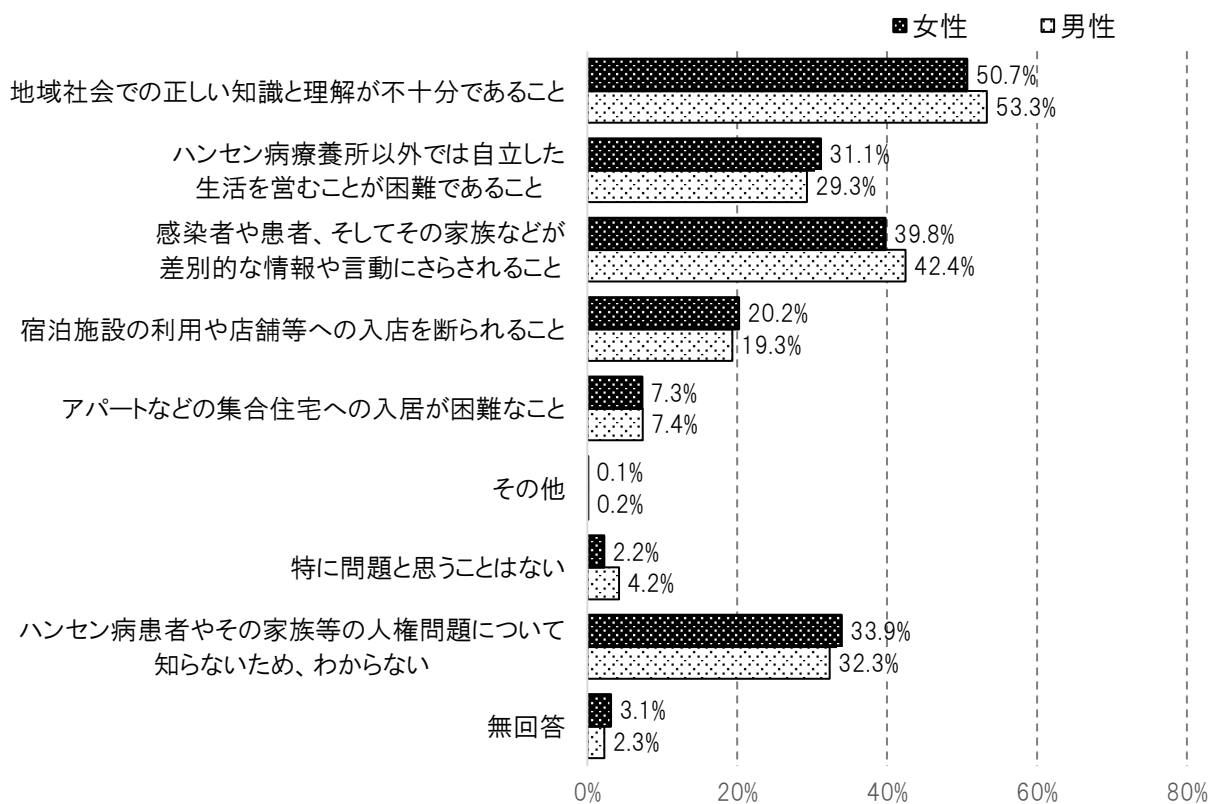
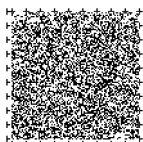
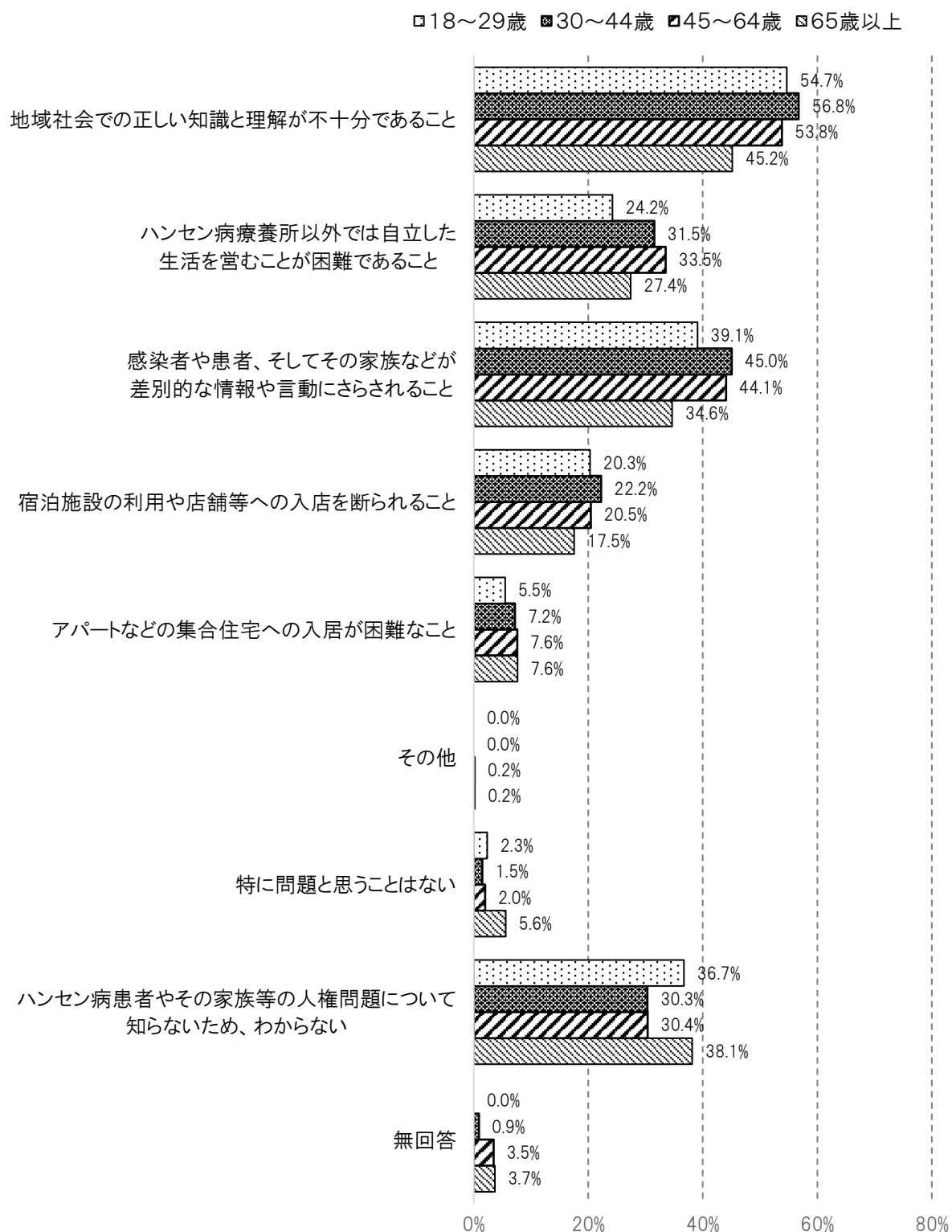
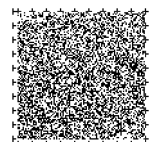


図23-③ハンセン病患者・回復者やその家族等の人権に関し、特に問題と思うもの(年齢別)



年齢別で見ると、「18～29 歳」では、他の年齢と比べ最も割合が高くなっているものはない。「30～44 歳」では、「正しい知識と理解が不十分であること」56.8%、「差別的な情報や言動にさらされること」45.0%、「宿泊施設の利用や店舗等への入店を断られること」22.2%で最も高く、「45～64 歳」では「自立した生活を営むことが困難であること」33.5%で最も高く、「65 歳以上」では「集合住宅への入居が困難なこと」7.6%で最も高くなっている。

また、「65 歳以上」では、「特に問題と思うことはない」5.6%、「ハンセン病患者等の人権問題は知らない」38.1%、「無回答」3.7%であり、合計して47.4%と、最も高くなっているが、その他の年齢においてもこれらの項目の割合の合計は3割を超えている状況であり、いずれの年齢でも問題意識を持つに至っていない割合が高くなっている。



問24 インターネット上の人権侵害に関することから、特に問題であると思うものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。(複数回答)

表24 インターネット上の人権侵害に関し、特に問題と思うもの

		合計	トラブルの原因となる書き込み等が起るこ	個人情報流出を招くこ	さまざまな危険があること	差別を助長する表現・情報が多いこと	暴力や画像に関する有害な情報や性に関する有害な	関係なくアクティビティに	その他	特に問題としない	インターネット上の人権侵害について知らない	無回答
上段:回答者数(人) 下段:割合(%)												
全体		1,573	1,053	840	822	408	262	380	17	24	171	42
		100.0	66.9	53.4	52.3	25.9	16.7	24.2	1.1	1.5	10.9	2.7
性別	女性	890	610	470	502	200	156	228	4	7	95	27
		100.0	68.5	52.8	56.4	22.5	17.5	25.6	0.4	0.8	10.7	3.0
	男性	662	430	363	309	206	105	149	13	17	72	11
		100.0	65.0	54.8	46.7	31.1	15.9	22.5	2.0	2.6	10.9	1.7
年齢	その他	3	1	2	2	0	0	0	0	0	1	0
		100.0	33.3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	18~29歳	128	88	90	74	42	16	26	2	1	5	0
		100.0	68.8	70.3	57.8	32.8	12.5	20.3	1.6	0.8	3.9	0.0
年齢	30~44歳	333	227	222	203	107	63	83	1	4	8	2
		100.0	68.2	66.7	61.0	32.1	18.9	24.9	0.3	1.2	2.4	0.6
	45~64歳	606	443	340	309	174	98	152	8	7	48	17
		100.0	73.1	56.1	51.0	28.7	16.2	25.1	1.3	1.2	7.9	2.8
年齢	65歳以上	485	283	184	228	82	83	116	6	11	106	18
		100.0	58.4	37.9	47.0	16.9	17.1	23.9	1.2	2.3	21.9	3.7

インターネット上の人権侵害に関することから、特に問題であると思うものとして、割合が最も高いのは、「書き込み等が原因でさまざまなトラブルが起るこ」66.9%で、次いで「個人情報の流出を招くこ」53.4%、「犯罪に巻き込まれる危険があるこ」52.3%の順に高くなっている。

一方、「特に問題としない」1.5%、「インターネット上の人権侵害についてはわからない」10.9%、「無回答」2.7%で、合計した15.1%がインターネット上の人権侵害に関して問題意識を持つに至っていない状況となっている。

性別で見ると、「犯罪に巻き込まれる危険があるこ」では、女性56.4%、男性46.7%であり、女性が9.7ポイント高くなっている。また、「差別を助長するような表現・情報が多いこ」では、女性22.5%、男性31.1%であり、男性が8.6ポイント高くなっている

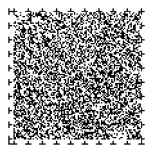


図24-① インターネット上の人権侵害に関し、特に問題と思うもの(全体)

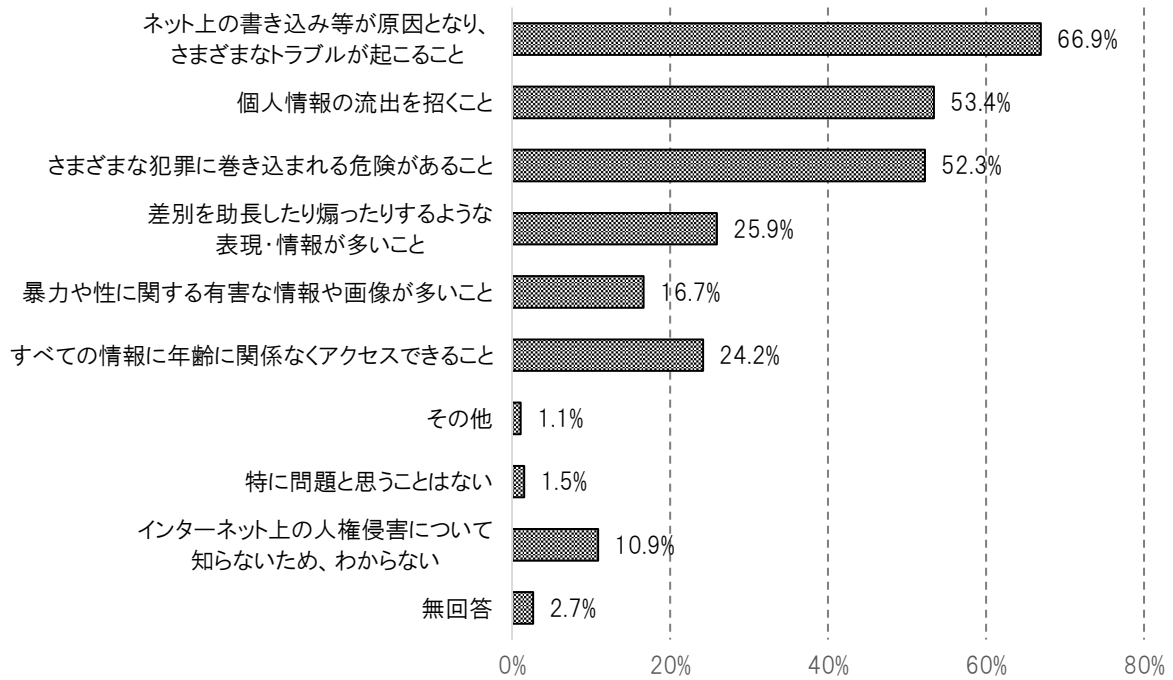


図24-② インターネット上の人権侵害に関し、特に問題と思うもの(性別)

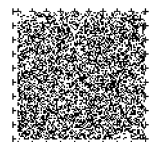
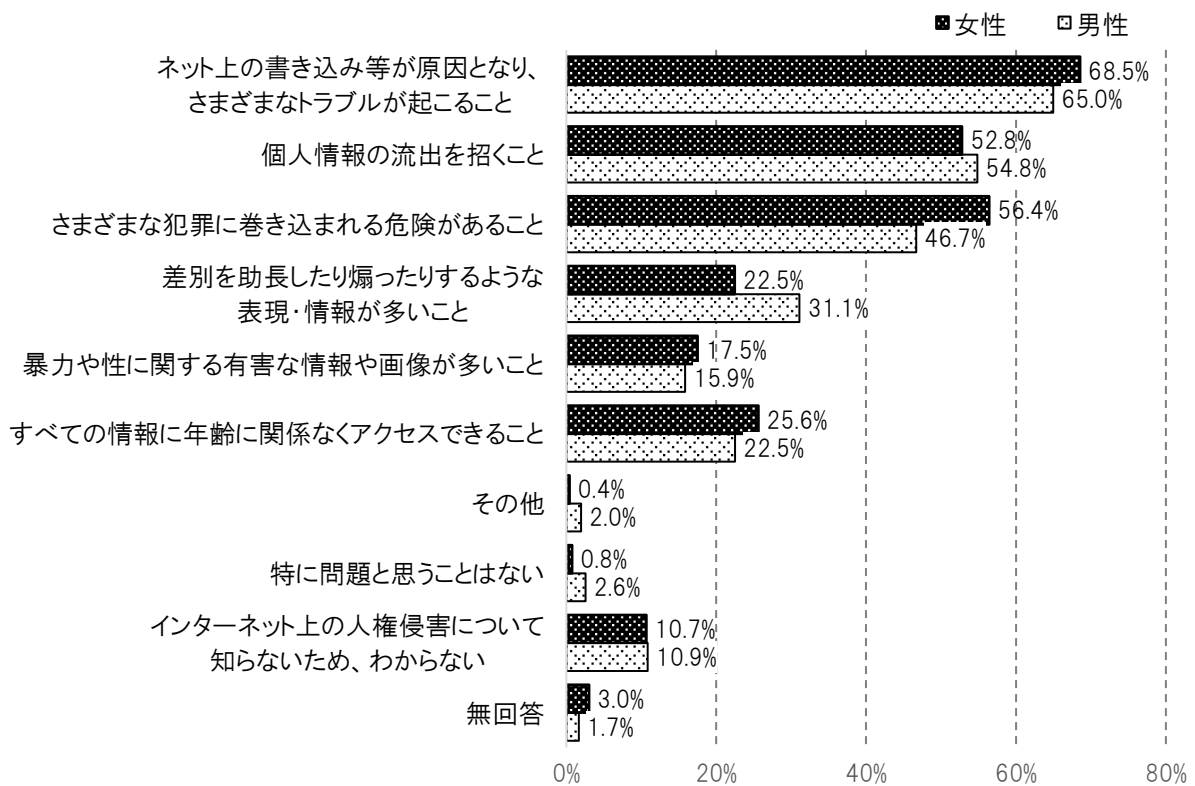
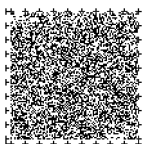
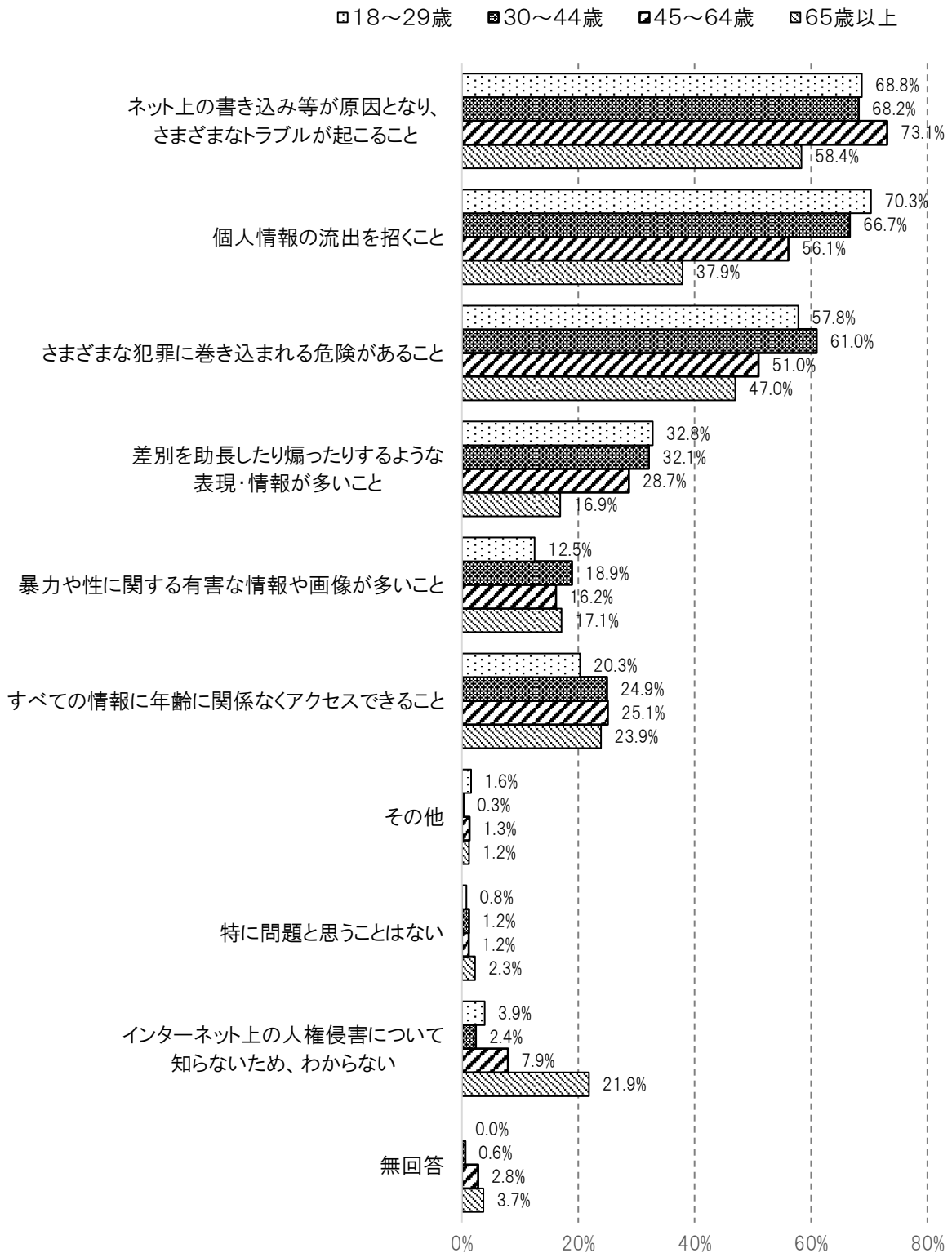


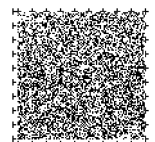
図24-③ インターネット上の人権侵害に関し、特に問題と思うもの(年齢別)



年齢別で見ると、「18～29歳」では「個人情報の流出を招くこと」70.3%、「差別を助長するような表現・情報が多いこと」32.8%で他の年齢と比べ、割合が最も高くなっている。

「30～44歳」では「犯罪に巻き込まれる危険があること」61.0%、「有害な情報や画像が多いこと」18.9%で最も高く、「45～64歳」では「書き込み等が原因でさまざまなトラブルが起こること」73.1%、「年齢に関係なくアクセスできること」25.1%で最も高く、「65歳以上」では、最も高いものはない。

また、「65歳以上」では、「特に問題と思うことはない」2.3%、「インターネット上の人権侵害についてはわからない」21.9%、「無回答」3.7%であり、合計して27.9%と最も高くなっており、約3割の回答者が問題意識を持つに至っていない状況となっている。



問25 LGBTをはじめとする性的少数者の人権に関することから、特に問題であると思うものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。(複数回答)

表25 LGBTをはじめとする性的少数者の人権に関し、特に問題と思うもの

		合計	や性的少数者に対する差別的言動や嫌がらせがあること	性的少数者に対する理解が不足していること	就職の際や働く際に不当な扱いを受けること	デジタルで見られたり、避けられたりすること	適切な相談相手がいらないこと	異なる性のカップルのための保障やサービスが提供できないこと	その他	特に問題と思うことはない	知らないため、わからないうちについて	無回答
上段:回答者数(人)+A4:M20 下段:割合(%)												
全体		1,573	448	751	321	264	308	298	10	78	495	69
		100.0	28.5	47.7	20.4	16.8	19.6	18.9	0.6	5.0	31.5	4.4
性別	女性	890	245	430	194	160	179	191	4	21	282	45
		100.0	27.5	48.3	21.8	18.0	20.1	21.5	0.4	2.4	31.7	5.1
	男性	662	200	313	123	103	124	104	6	57	204	20
	100.0	30.2	47.3	18.6	15.6	18.7	15.7	0.9	8.6	30.8	3.0	
	その他	3	2	2	1	0	1	3	0	0	0	0
	100.0	66.7	66.7	33.3	0.0	33.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	18~29歳	128	60	77	28	20	33	42	2	5	18	0
		100.0	46.9	60.2	21.9	15.6	25.8	32.8	1.6	3.9	14.1	0.0
	30~44歳	333	106	189	69	86	86	84	2	20	67	5
		100.0	31.8	56.8	20.7	25.8	25.8	25.2	0.6	6.0	20.1	1.5
	45~64歳	606	200	318	149	102	110	118	2	20	172	19
	100.0	33.0	52.5	24.6	16.8	18.2	19.5	0.3	3.3	28.4	3.1	
	65歳以上	485	81	162	71	54	75	54	4	32	229	40
	100.0	16.7	33.4	14.6	11.1	11.1	11.1	0.8	6.6	47.2	8.2	

LGBTをはじめとする性的少数者の人権に関することから、特に問題であると思うものとして、割合が最も高いのは、「理解が不足していること」47.7%で、次いで「差別的言動や嫌がらせがあること」28.5%、「就職の際や働く際に不当な扱いを受けること」20.4%の順に高くなっている。

一方、「特に問題と思うことはない」5.0%、「性的少数者の人権問題についてはわからない」31.5%、「無回答」4.4%で、合計40.9%となり、約4割が性的少数者の人権問題に関して問題認識を持つに至っていない状況となっている。

性別で見ると、「保障やサービスを同性のカップルは受けることができないこと」では、女性21.5%、男性15.7%であり、女性が5.8ポイント高くなっている

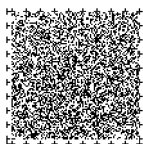


図25-① LGBTをはじめとする性的少数者の人権に関し、特に問題と思うもの(全体)

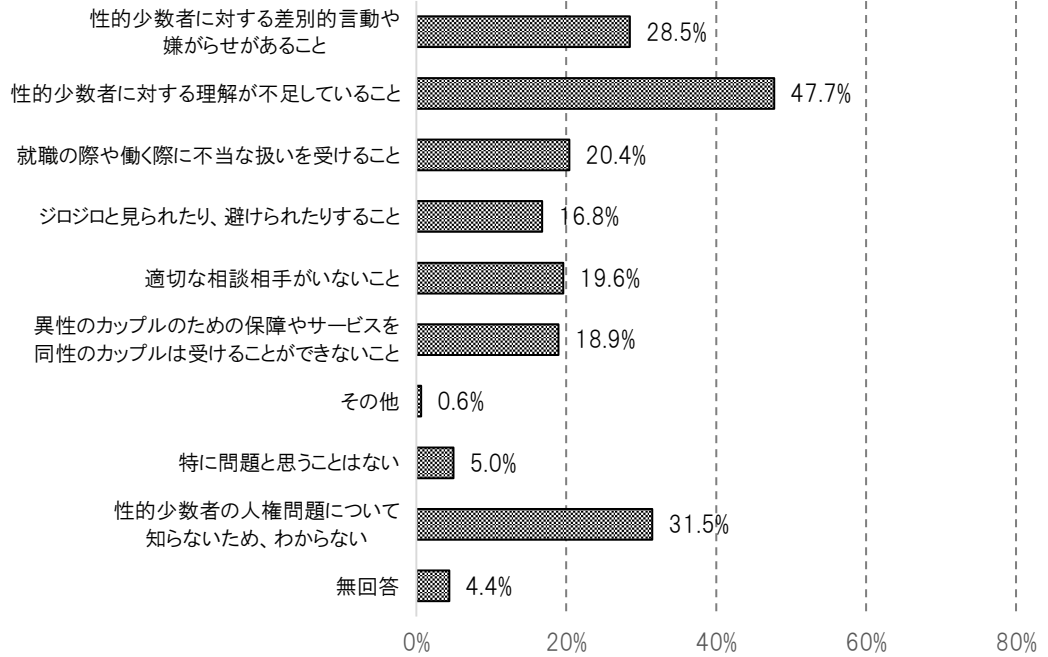


図25-② LGBTをはじめとする性的少数者の人権に関し、特に問題と思うもの(性別)

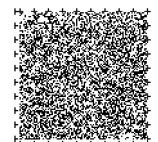
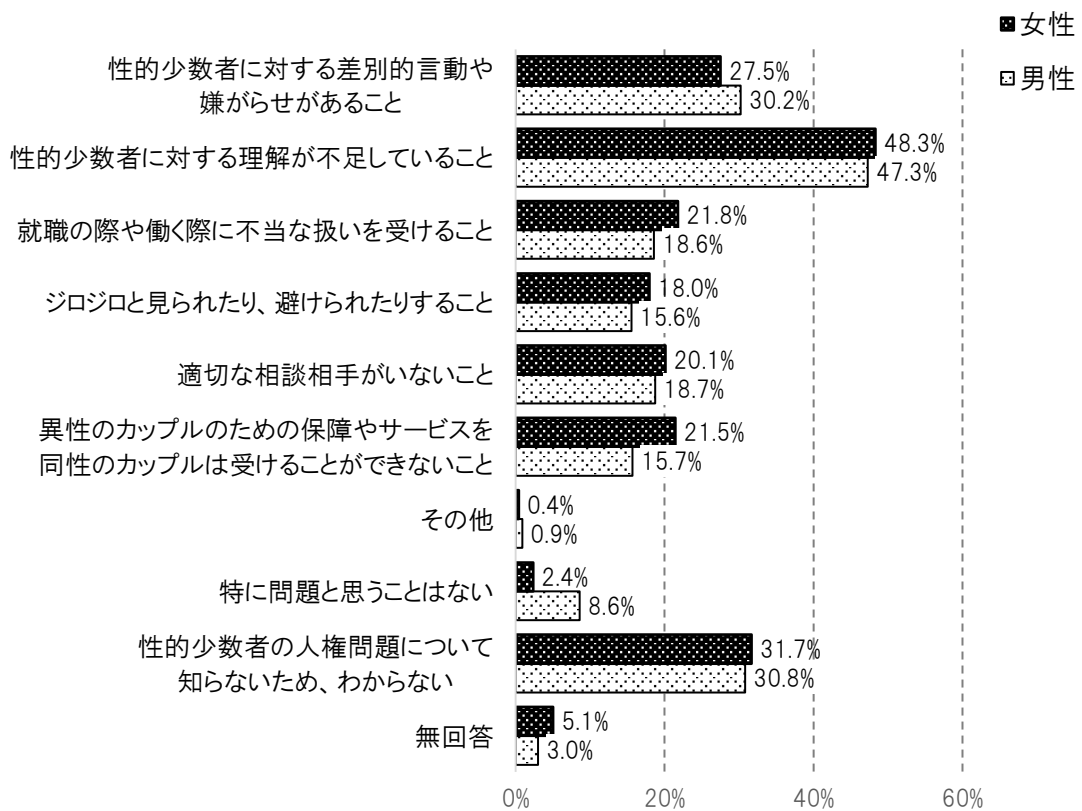
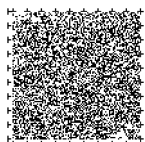
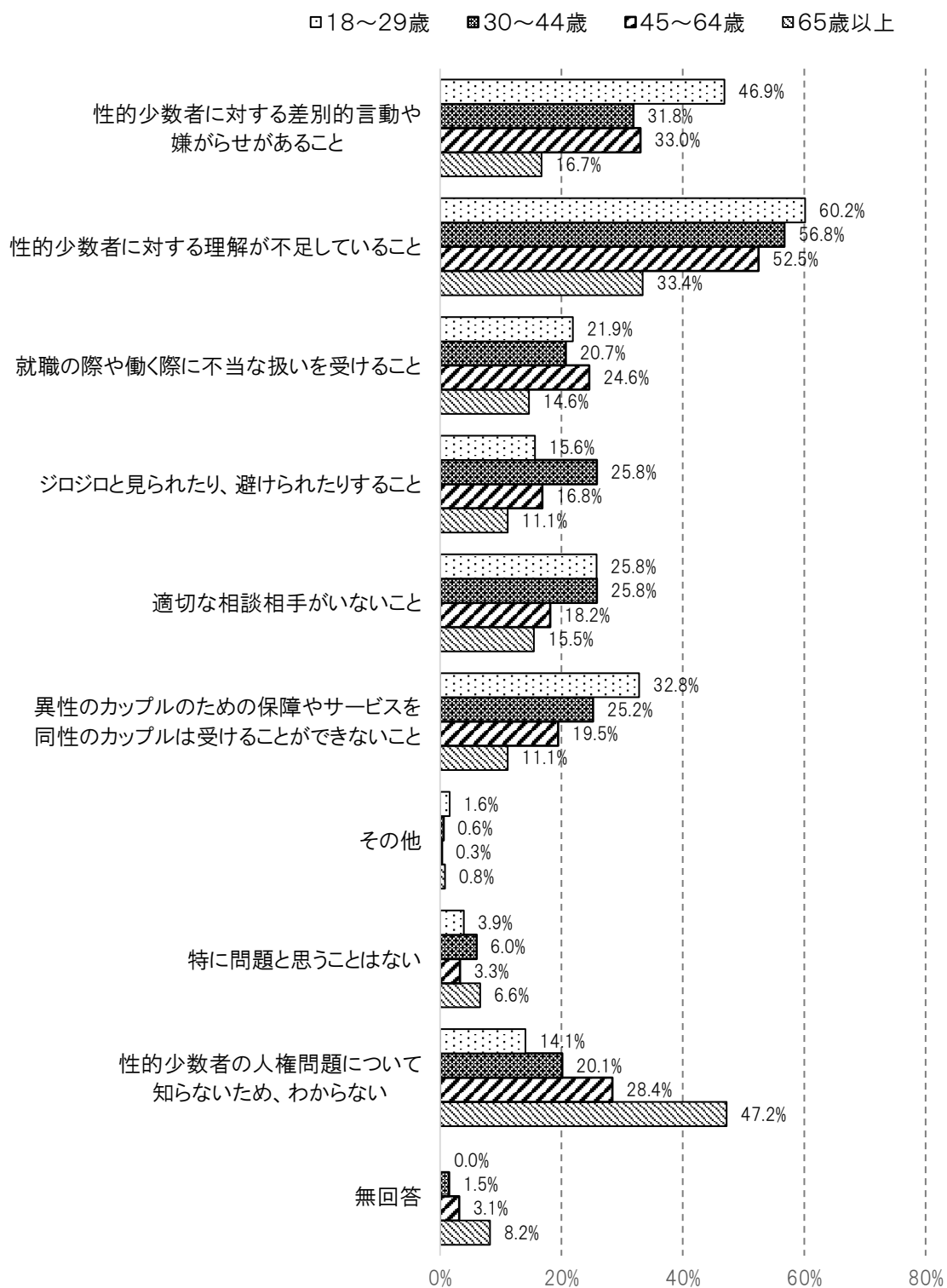


図25-③LGBTをはじめとする性的少数者の人権に関し、特に問題と思うもの(年齢別)



年齢別で見ると、「18～29歳」では「理解が不足していること」60.2%、「差別的言動や嫌がらせがあること」46.9%、「保障やサービスを同性のカップルは受けることができないこと」32.8%で他の年齢と比べ、割合が最も高くなっている。「30～44歳」では「見られたり、避けられたりすること」25.8%、「適切な相談相手がいないこと」25.8%で最も高く、「45～64歳」では「就職の際や働く際に不当な扱いを受けること」24.6%で最も高く、「65歳以上」では、最も高いものはない。

また、「45～64歳」では、「特に問題と思うことはない」3.3%、「性的少数者の人権問題についてはわからない」28.4%、「無回答」3.1%で合計34.8%、「65歳以上」では、合計62.0%と割合がかなり高くなっており、特に「65歳以上」では、約6割の回答者が問題認識を持つに至っていない状況となっている。

